

シ ラ バ ス

——平成 25 年度(2013)——

人 間 科 学 編

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間で過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成 25 年 4 月

九州工業大学工学部

教 員 編 成 表

(工学部担当教員)

学 長 松 永 守 央 ・ 工学部長 前 田 博

(H 25.4.1 現在)

氏 名	職 名
人 間 科 学 科 目	
アブドゥハン恭子	教 授
田 吹 昌 俊	教 授
鳥 井 正 史	教 授
本 田 逸 夫	教 授
水 井 万里子	教 授
ラックストン イアン.c	教 授
大 野 瀬津子	准教授
児 玉 恵 美	准教授
反 町 裕 司	准教授
辻 隆 司	准教授
中 村 雅 之	准教授
虹 林 慶	准教授
八 丁 由 比	准教授
東 野 充 成	准教授
ロング・ロバート	准教授
前 田 雅 子	講 師

目次

附属図書館における教育支援業務の概要

I. 人間科学基礎科目

1. 人文社会系科目

哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
哲学Ⅱ	3
倫理学Ⅰ	3
倫理学Ⅰ	4
倫理学Ⅱ	4
倫理学Ⅱ	5
歴史学Ⅰ	5
歴史学Ⅰ	6
歴史学Ⅱ	7
文学Ⅰ	8
文学Ⅱ	8
心理学Ⅰ	9
心理学Ⅱ	9
教育心理学	10
教育学Ⅰ	10
教育学Ⅱ	11
教育原理	11
教育社会学	12
法学	13
日本国憲法	14
社会学Ⅰ	14
社会学Ⅰ	15
社会学Ⅱ	15
社会学Ⅱ	16
経済学Ⅰ	17
経済学Ⅰ	18
経済学Ⅱ	18
政治学Ⅰ	19
政治学Ⅰ	19
政治学Ⅱ	20
地域研究Ⅰ	20
地域研究Ⅰ	21
地域研究Ⅱ	22
地域研究Ⅱ	23
職業と社会 A	24
職業と社会 B	25
職業と社会 C	25
日本語表現法 A	26
日本語表現法 B	26
日本語表現法 C	27
哲学と現代Ⅰ	27
哲学と現代Ⅱ	28
西洋社会史Ⅰ・Ⅱ	28

日本政治論Ⅰ	29
日本政治論Ⅱ	30
地域経営論	30
産業組織論	31
教育システム論	31
選択日本事情 A	32
選択日本事情 B	32

2. 外国語系科目

(1) 英語

英語科目についての概要	33
総合英語 AⅠ	34
総合英語 AⅡ	34
総合英語 BⅠ	35
総合英語 BⅠ	35
総合英語 BⅠ	36
総合英語 BⅠ	36
総合英語 BⅠ	37
総合英語 BⅡ	37
総合英語 BⅡ	38
総合英語 BⅡ	38
総合英語 BⅡ	39
総合英語 BⅡ	39
総合英語 CⅠ	40
総合英語 CⅠ	40
総合英語 CⅠ	41
総合英語 CⅠ	41
総合英語 CⅠ (アドバンスト)	42
総合英語 CⅠ	42
総合英語 CⅠ (アドバンスト)	43
総合英語 CⅠ	43
総合英語 CⅠ	44
総合英語 CⅠ	44
総合英語 CⅠ	45
総合英語 CⅠ	45
総合英語 CⅠ	46
総合英語 CⅠ	46
総合英語 CⅠ	47
総合英語 CⅠ	47
総合英語 CⅠ	48
総合英語 CⅠ	48
総合英語 CⅡ	49
総合英語 CⅡ	49
総合英語 CⅡ (アドバンスト)	50
総合英語 CⅡ	50
総合英語 CⅡ (アドバンスト)	51
総合英語 CⅡ	51
総合英語 CⅡ	52
総合英語 CⅡ	52
総合英語 CⅡ	53

総合英語CⅡ	53	基礎ドイツ語B	86
総合英語CⅡ	54	基礎ドイツ語B	87
総合英語CⅡ	54	基礎ドイツ語B	87
総合英語CⅡ	55	ドイツ語A	88
総合英語CⅡ	55	ドイツ語A	88
総合英語CⅡ	56	ドイツ語A	89
総合英語CⅡ	56	ドイツ語BⅠ	89
総合英語CⅡ	57	ドイツ語BⅡ	90
総合英語CⅡ	57	ドイツ語CⅠ	90
中級英語Ⅰ	58	ドイツ語CⅡ	91
中級英語Ⅰ	58	(3) 中国語	
中級英語Ⅰ	59	基礎中国語AⅠ	92
中級英語Ⅱ	59	基礎中国語AⅠ	92
中級英語Ⅱ	60	基礎中国語AⅠ	93
上級英語AⅠ	60	基礎中国語AⅠ	93
上級英語AⅡ	61	基礎中国語AⅡ	94
上級英語BⅠ	61	基礎中国語AⅡ	94
上級英語BⅠ	62	基礎中国語AⅡ	95
上級英語BⅡ	62	基礎中国語AⅡ	95
上級英語BⅡ	63	基礎中国語B	96
上級英語CⅠ	63	基礎中国語B	96
上級英語CⅡ	64	基礎中国語B	97
技術英語Ⅰ	64	基礎中国語B	97
技術英語Ⅱ	65	中国語A	98
(2) ドイツ語		中国語BⅠ	98
初修外国語について	66	中国語BⅡ	99
基礎ドイツ語AⅠ	67	(4) ロシア語	
基礎ドイツ語AⅠ	67	ロシア語Ⅰ	100
基礎ドイツ語AⅠ	68	ロシア語Ⅱ	100
基礎ドイツ語AⅠ	68	(5) 韓国(朝鮮)語	
基礎ドイツ語AⅠ	69	韓国(朝鮮)語Ⅰ	101
基礎ドイツ語AⅠ	69	韓国(朝鮮)語Ⅱ	101
基礎ドイツ語AⅠ	70		
基礎ドイツ語AⅠ	70	3. 保健体育系科目	
基礎ドイツ語AⅠ	71	保健体育系科目の概要	102
基礎ドイツ語AⅠ	71	スポーツ運動学実技A	102
基礎ドイツ語AⅠ	72	スポーツ運動学実技B	103
基礎ドイツ語AⅠ	72	健康スポーツ科学論	103
基礎ドイツ語AⅡ	73		
基礎ドイツ語AⅡ	73	4. リレー講義科目	
基礎ドイツ語AⅡ	74	テーマ別リレー講義	
基礎ドイツ語AⅡ	74	「人権とはなにか」	104
基礎ドイツ語AⅡ	75	2013年リレーセミナー	
基礎ドイツ語AⅡ	75	「転換期の食と農」	105
基礎ドイツ語AⅡ	76		
基礎ドイツ語AⅡ	76	Ⅱ-1. 教職に関する専門教育科目	
基礎ドイツ語AⅡ	77	教職論	107
基礎ドイツ語AⅡ	77	教育原理	107
基礎ドイツ語AⅡ	78	教育心理学	108
基礎ドイツ語AⅡ	78	教育社会学	109
基礎ドイツ語B	79	工業教科教育法	110
基礎ドイツ語B	80	教科教育法(数学)Ⅰ	111
基礎ドイツ語B	80	教科教育法(数学)Ⅱ	111
基礎ドイツ語B	81	教育課程論	112
基礎ドイツ語B	82	特別活動の指導法	112
基礎ドイツ語B	82	教育方法	113
基礎ドイツ語B	83	生徒指導(進路指導を含む。)	113
基礎ドイツ語B	83	教育相談	114
基礎ドイツ語B	84	教職実践演習(高)	114
基礎ドイツ語B	85		
基礎ドイツ語B	85		

II-2. 工業の教科に関する専門教育科目

職業指導.....	115
-----------	-----

III. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要.....	117
日本語 A I	117
日本語 A I	118
日本語 A II	118
日本語 A II	119
日本語 B I	119
日本語 B II	120
日本語 C I	120
日本語 C II	121
日本事情 A	121
日本事情 B	122
日本事情 C	122
日本事情 D	123

附属図書館における教育支援業務の概要

1. 概要

学習や研究活動をより効果的に進めるために、附属図書館で行っている教育支援業務について簡単に説明します。ほとんどの情報はウェブのページに記載されていますので、詳細は次のページを確認してください。

→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/>

2. 利用案内

開館時間と休館日、館内の案内図、貸出・返却・更新・予約の方法、図書や雑誌の探し方、文献複写・相互貸借の依頼の仕方について紹介します。

3. 資料案内

ビデオオンデマンド教材、学術雑誌コーナーやブラウジングコーナーに配架している購入雑誌の一覧、本学の博士学位論文の論題と目次（要旨）の一覧を紹介します。

4. その他の図書館サービス

- ・マイライブラリ → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do>

以下のリクエストサービスを提供：

Web からの文献複写依頼、他大学への図書借用依頼、新着情報、貸出状況照会、貸出期間の延長、図書資料の予約・予約の取消し、依頼状況照会、マイフォルダの利用

- ・本館分館間資料取寄せ
- ・ラーニングコモンズ：自主的な課題解決型学習を支援する場として図書館 1 階に設置された空間。可動式机椅子、プロジェクタ、貸出ノート PC によりグループレアニングやプレゼンテーションを行える。ラーニングコモンズサポーターによる学習支援
- ・iPad の貸出
- ・e ラーニング → <http://www.e-learningcenter.kyutech.ac.jp>
- ・PC 及び無線 LAN

5. 図書館の蔵書データベースの検索

図書館の蔵書は図書、雑誌、視聴覚資料等で構成されており、目録はすべてデータベース化されているためオンライン（OPAC: Online Public Access Catalog）で検索し学内の所蔵を調べることができます。

日本語検索 <http://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=ja>

英語検索 <http://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=en>

携帯電話からも検索可 → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/limedio/i/>

学内に所蔵がない場合 → <http://ci.nii.ac.jp/books/>

CiNii Books：全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース

6. 文献データベース等の検索（一部を除き VPN 接続や情報科学センター教育システムの ID で学外からも検索可能）

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データをさがすことができます。

☆国内文献をさがす：主に 1 年生～3 年生からのレベル

- ・CiNii Articles：学協会発行の学術雑誌と大学等の研究紀要を対象とした論文の引用文献情報データベース。

一部本文の参照も可。 → <http://ci.nii.ac.jp/>

- JDream III：国内や海外の科学技術、医学に関する、学術論文や解説的記事などの抄録付きの文献情報データベース → <http://jdream3.com/>
- 雑誌記事索引検索（国立国会図書館）：国内刊行和文雑誌を対象とした記事データベース → <https://ndlopac.ndl.go.jp>
- 日経BP記事検索サービス：日経BP社が発行する雑誌（約40誌）のバックナンバー記事を、オンライン上で検索・閲覧できるサービス → <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
- ヨミダス文書館：読売新聞と“THE DAILY YOMIURI”（英字新聞）とが収録された新聞記事データベースと、「よみうり人物データベース」を提供 → <https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 理科年表プレミアム：1925年（大正14年）以降最新版までの理科年表の内容を収録 → <http://www.rikanenpyo.jp/member/>
- ジャパンナレッジ・プラスN：百科事典、国語辞典、用語辞典、外国語辞典、歴史辞典、人名辞典、地図、会社四季報、ニュース、学術サイトURL集等事典・辞書を中心に30以上のコンテンツが搭載されている総合データベースです。 → <http://www.jkn21.com/>

☆外国文献をさがす：主に卒研究生、院生、教員からのレベル

- JDream II：海外の学術論文の抄録の翻訳を含む。 → <http://ninsho.jst.go.jp/loginIP.html>
- Web of Science (Science Citation Index Expanded)：世界的な自然科学系のメジャー雑誌、約8,400誌に掲載された論文の引用関係を効率的に辿ることのできるデータベース。
本学が契約している電子ジャーナルの原著論文へのリンク機能を持つ。
→ <http://www.webofknowledge.com/>
- INSPEC：物理学、電気工学、エレクトロニクス、コンピュータ分野にわたる世界的な科学技術文献を網羅した優れたリソース、約700万件の書誌事項を収録 → <http://www.webofknowledge.com/inspec>
- Journal Citation Report on the Web (Science edition)：約200の専門分野にわたる7,000誌以上の、最も引用され・かつ国際的評価の高い学術雑誌が収録し、Impact factorなどの雑誌の重要度、影響度を測るための有用な指標を提供 → <http://isiknowledge.com/JCR>
- MathSciNet：AMS (American Mathematical Society: 米国数学会) 提供による、世界の数学文献をカバーする包括的な書誌・レビューデータベース → <http://www.ams.org/mathscinet/>

7. 電子ジャーナルの検索・閲覧（VPN接続や情報科学センター教育システムのIDで学外からも閲覧可能）

文献データベースで検索した原著論文のフルテキストをオンラインで閲覧することができます。

ScienceDirect、SpringerLink、Wiley-Online Library等はサブジェクト毎のコレクションを有するとともに検索機能をもったデータベースでもあります。学術雑誌約5,300タイトルが閲覧可能です。

☆主な電子ジャーナル

- ScienceDirect (Elsevier社)：自然科学・工学・医学分野他 → <http://www.sciencedirect.com/>
- SpringerLink (Springer社)：自然科学・工学・医学分野他 → <http://link.springer.com/>
- Wiley Online Library (Wiley社)：自然科学・工学・医学分野他 → <http://onlinelibrary.wiley.com/>
- CSDL (IEEE Computer Society Digital Library)：コンピュータサイエンス
→ <http://www.computer.org/portal/web/csdl>
- APS (American Physical Society)：物理学 → <http://prola.aps.org/>
- American Chemical Society Web Editions：化学・応用化学 → <http://pubs.acs.org/>
- Nature：Nature本誌と生命科学・材料科学分野5タイトル → <http://www.nature.com/nature/>
- ASME (American Society of Mechanical Engineers)：機械 → <http://asmedl.org/>
- IMechE (Institution of Mechanical Engineers)：機械 → <http://online.sagepub.com/>

- IOP (Institute of Physics) : 物理 → <http://iopscience.iop.org/journals>

8. 電子ブックの利用

- NetLibrary → <http://search.ebscohost.com/>
大学の学部生向けの基本的な学術図書のコレクションです。
「物理学 30 講シリーズ」、「理工系の数学教室」、「新・数学とコンピュータシリーズ」等 理工系和書（朝倉書店、東京電機大学出版局他）と洋書 453 点を閲覧できます。
- Springer 社 eBook → <http://link.springer.com/>
シュプリンガー・イーブック・コレクションのうち、2005 年の全分野と Engineering（工学）分野の 2005 年から 2011 年まで約 11,000 点を閲覧できます。
- Wiley online books → <http://onlinelibrary.wiley.com/>
ワイリーの電子ブック 179 点(理工・人文分野)を Wiley Online Library のプラットフォームから閲覧できます。
- ScienceDirect eBooks → <http://www.sciencedirect.com/>
エルゼビアの電子ブック 2010 年発行の 386 点（理工学系分野）を ScienceDirect のプラットフォームから閲覧できます。
- ジャパンナレッジ・プラス N → <http://www.jkn21.com/>
東洋文庫、新編日本古典文学全集など和書約 800 点を閲覧できます。

9. 図書館発信データベースの検索

- 九州工業大学学術機関リポジトリ “Kyutacar（キューテイカー）”：学内で生産された教育・研究成果情報を電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベース
→ <http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>
- 筑豊歴史写真ギャラリー（情報工学部分館）：昭和 30 年代前半まで日本の産業・経済を支え、わが国有数の石炭生産地であった筑豊の往時の姿を伝える写真データベース → <http://search2.libi.kyutech.ac.jp/>
- 博士学位論文：九州工業大学で授与された課程博士論文、論文博士論文の論題と目次（要旨）の一覧
→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/>

10. ビデオオンデマンド教材の閲覧（VPN 接続で学外からも閲覧可能）

丸善 BBC 等の主に英語教育を目的としたビデオプログラムを VOD 配信するサービス

☆戸畑・若松キャンパス → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/>

- 科学と人間：クローン時代と生命倫理＝DAWN OF THE CLONE AGE（英語、日本語字幕版）など約 100 点を閲覧できます。

図書館情報リテラシー

全学科 1 年次 前期 工学基礎科目の「情報リテラシー」の時間に行う。

担当 1) 図書館：学術情報資源の活用法

附属図書館業務委託請負業者

2) 学習教育センター ICT 支援部門：e-ラーニング教材の使い方

学習教育センター ICT 支援部門 大西淑雅講師、山口真之介助教

アシスタント 附属図書館の業務委託請負業者及び図書館職員（4～5 人）、TA

概 要

1. 目的

大学の学術情報基盤を支える図書館の機能やサービスを紹介し、端末を使って情報検索を実習することにより図書館の活用能力を高め、学生の学習や研究活動をより効果的に行うことを目的とする。また、学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習を行うことによって、大学内の自主学習環境を活用する習慣を涵養することを目的とする。

2. 方法

新入生を対象として、工学基礎科目の情報リテラシーの 1 コマ 90 分の時間の中で図書館における情報リテラシーについて説明、実習を行う。また、学習教育センター ICT 支援部門による学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの説明、紹介を行う。

1) 図書館：学術情報資源の活用法（65 分）

2) 学習教育センター ICT 支援部門：学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習（20 分）

3) 授業アンケート（5 分）

授業計画

(1) 学術情報資源の活用法（図書館）

1) 大学での学習・研究と図書館の役割

2) 学術情報とは

- 図書と雑誌の違い
- 1 次資料と 2 次資料

3) 図書の探し方

- OPAC を使って、書名検索・著者名検索を行う。
- CiNii Books を使う。
- 実習：演習問題を OPAC または CiNii Books で検索する。

4) 引用・参考文献について

- 引用・参照のルールの説明

5) 参考文献リストに載っている雑誌論文の読み方

6) 雑誌論文の所在を探す

- OPAC を使って、雑誌名検索を行う。

7) 電子ジャーナルの使い方

8) 雑誌論文をテーマで探す

- CiNii の特徴と使い方の説明
- JDream III の特徴と使い方の説明
- 実習：演習問題を CiNii または JDream III を使って調べる。

- 9) その他の文献情報データベースの説明
- 10) 電子ブックの説明
- 11) ビデオ・オン・デマンドの説明
- 12) マイライブラリと図書館の利用
- (2) 各種サービスと自主学習教材の使い方(学習教育センター ICT 支援部門)
 - 1) 学習支援サービス(Moodle)の紹介
 - ・講義での活用を想定し、注意点を説明
 - ・PDF 版「学習支援サービス利用の手引」の活用を説明
 - 2) 情報倫理のビデオ教材
 - ・情報倫理を学ぶための教材を紹介
 - ・自主学習、講義での一部活用、研究室での活用を推奨
 - 3) 自主学習(e-ラーニング)英語教材の紹介
 - ・ALC ネットアカデミーの利用方法を説明
 - ・図書館 VOD サービスを紹介
 - 4) 無線 LAN サービス(ISC)の概要とモバイル端末の活用
 - ・無線 LAN サービスの登録と利用法
 - ・handbook3 サービスの利用
- (3) 授業の進め方
 - 端末室でのインターネットを利用した実習形式

教科書・参考書

図書館作成のテキスト・演習問題他、CiNii クイックガイド他
「学習支援サービス利用の手引」

備 考

Moodle による授業アンケートを実施する。

I. 人間科学基礎科目

(1) 人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

2. 目標

1) 知識・理解

- 人間科学基礎科目・人文社会系の各選択必修科目において、多様な人間、社会及び文化に関して理解する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「職業と社会」において、工学・技術が社会で果たす役割を理解する。

2) 汎用的技能

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目において、問題解決に必要な論理的・批判的思考力、分析力、説明能力を修得する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、背景や文脈を理解して適切に説明できる日本語能力を修得する。

3) 態度・志向性

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目や、副専門人間科学科目・人間科学総合科目のテーマ別リレー講義及びリレーセミナー等において、自己を律する自己管理ができ、自発的な活動ができることを目指す。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、人々と協調でき、個人の能力も発揮できることを目指す。

3. 科目の内容

- ・具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

4. 履修上の注意

- ・人間科学基礎科目・人文社会系の選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

退屈の哲学：現代社会において、「退屈」がもつ意味について、現象学、心理学等を駆使して分析する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

退屈、気分、現象学

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 退屈な講義について
- 第2回 怠惰について
- 第3回 無為について
- 第4回 変化について
- 第5回 時間について
- 第6回 余暇について
- 第7回 分かりやすさについて
- 第8回 おもしろさについて
- 第9回 退屈は「気分」なのか
- 第10回 退屈な話
- 第11回 動物は退屈するか
- 第12回 退屈と疲労
- 第13回 ニーチェ、ハイデガー
- 第14回 退屈する自由
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

ラース・スヴェンセン『退屈の小さな哲学』（集英社新書、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜2限）

●授業の概要

評論を「読み」かつ「考える」：高校までで「哲学」と名のつく授業を取った者はほとんどいないだろうが、じつは国語教科書の評論の中には、哲学的思考にかかわるものが少なくない。そうした評論を、試験勉強のためでなく、本格的に読みこなすことによって、哲学的思考のやり方を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

哲学的思考、読解

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1～2回 田中美知太郎「モームの哲学練習」
（『古典学徒の信条』）
- 第3～4回 鶴見俊輔「日本の哲学言語」（『記号論集』）
- 第5～6回 湯川秀樹「科学者の創造性」
（筑摩日本文学全集『現代評論集』）
- 第7～9回 会田雄次「ヨーロッパ・ヒューマニズムの限界」
（同）
- 第10～13回 中村光夫「近代を疑う」
- 第14回 小浜逸郎「人は何のために生きるのか」
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時に取り上げた著者の他の評論にも目を通してみる。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅰ Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

第1～2回 批判的・創造的思考

第3～5回 推論のやり方

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 因果的説明

第9～11回 表現の明確化

第12回 レポート検討Ⅱ

第13～15回 理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必要要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかを考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

2. キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 「分からない」とはどういうことか。

第2回 文化的背景の違い

第3回 翻訳の問題

第4回 日本語の問題

第5回 プラトン『パイドン』（1）

第6回 プラトン『パイドン』（2）

第7回 デカルト『省察』（1）

第8回 デカルト『省察』（2）

第9回 カント『純粹理性批判』（1）

第10回 カント『純粹理性批判』（2）

第11回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（1）

第12回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（2）

第13回 ハイデガー『存在と時間』（1）

第14回 ハイデガー『存在と時間』（2）

第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜 2 限）

●授業の概要

死の哲学：哲学は死の練習と言われるように、死は、古来哲学の中心問題であり続けた。現代医療の発達による死の概念の揺れなどを考慮しつつ、死の問題に迫る。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

脳死、尊厳死、死生観

3. 到達目標

- ・伝統的・現代的（尊厳死、脳死）な死の概念にまつわる哲学的問題を理解する。
- ・それに基づいて、できるだけ一貫した自らの判断ができるようにする。

4. 授業計画

- | | |
|-------|------------|
| 第1回 | 哲学は死の練習 |
| 第2～6回 | ハイデガーの死の哲学 |
| 第6回 | 死の自己決定 |
| 第7回 | <関係>としての死 |
| 第8回 | 尊厳死 |
| 第9回 | 『往生要集』 |
| 第10回 | 日本人の来世観 |
| 第11回 | 脳死と揺れる死の概念 |
| 第12回 | 死の共同性 |
| 第13回 | キルケゴール |
| 第14回 | ショーペンハウアー |
| 第15回 | 試験問題解説 |

5. 評価の方法・基準

期末試験（約 70%）および数回のノート提出（約 30%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。
 『生と死の倫理学：よく生きるためのバイオエシックス入門』。
 篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室 3 階 490.1/S-7

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学Ⅰ Ethics Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜 1 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 倫理学と哲学（1） |
| 第2回 | 倫理学と哲学（2） |
| 第3回 | 倫理学と哲学（3） |
| 第4回 | 倫理学と哲学（4） |
| 第5回 | 古代ギリシア哲学―万物の原理の探求 |
| 第6回 | 古代ギリシア哲学―生き方の規範としての価値の探求 |
| 第7回 | 古代ギリシア哲学―自然の問題と人間の問題の総合 |
| 第8回 | 哲学とキリスト教 |
| 第9回 | 西洋中世哲学 |
| 第10回 | アウグスティヌス著『神の国』第1巻の要旨 |
| 第11回 | 『神の国』第2－3巻の要旨 |
| 第12回 | 『神の国』第4巻
一個々の神々に対する批判的考察（1） |
| 第13回 | 『神の国』第4巻
一個々の神々に対する批判的考察（2） |
| 第14回 | 『神の国』第4巻
一個々の神々に対する批判的考察（3） |
| 第15回 | 前期末試験 |
| 第16回 | 試験の解説、等 |

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著 / 服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）
 132.1/A-8/1

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅰ Ethics Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術の知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、国家、正義

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1巻の要旨
- 第11回 プラトン著『国家』第2－3巻—「国家」に関する考察
- 第12回 プラトン著『国家』第2－3巻—国の守護者の教育（1）
- 第13回 プラトン著『国家』第2－3巻—国の守護者の教育（2）
- 第14回 プラトン著『国家』第2－3巻—国の守護者についての諸条件
- 第15回 前期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）131.3/P-30-2/1

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜 1 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術の知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々、運命、神の摂理

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 キリスト教と哲学
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』第1－4巻の要旨（1）
- 第11回 『神の国』第1－4巻の要旨（2）
- 第12回 『神の国』第5巻—運命と占星術
- 第13回 『神の国』第5巻—神の予知と人間の自由意志
- 第14回 『神の国』第5巻—神の摂理
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）132.1/A-8/1

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術の知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

古代ギリシア哲学、ソクラテス、プラトン、国家、正義

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1—3巻の要旨
- 第11回 『国家』第4巻—守護者の任務
- 第12回 『国家』第4巻
—国家の「知恵」「勇気」「節制」「正義」の定義
- 第13回 『国家』第4巻—魂の機能の三分
- 第14回 『国家』第4巻
—個人の「知恵」「勇気」「節制」「正義」の定義
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）131.3/P-20-2/1

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

（E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp）

歴史学Ⅰ History Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（月曜 1・2 限）

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」（15 世紀末から 18 世紀）という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15 世紀末から 18 世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ（茶）の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

交易史、社会史、モノの歴史学、茶

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは？・個別事例：スパイス
- ③理論・個別事例：茶
- ④大航海時代：1 ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代：2 中核国の推移
- ⑦大航海時代：3 オランダ・イギリスの勃興
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖
- ⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地：過去・現在
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト	20%
レポート	20%

期末テスト 60%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習として VOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語 (日本語字幕版) 11、14』『素晴らしい列車の旅 パイリンガル版 1 (インド東から西へ)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998 年。081/C-1/596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

rekishiq@aol.com

歴史学 I History I

対象学科 (コース): 全学科 (人間科学科目) 学年: 2・3 年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

(金曜 2 限)

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15 世紀末から 18 世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15 世紀末から 18 世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ (茶) の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

資源、開発、技術、グローバル化、東西交流、植民地

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例: スパイス
- ③理論・個別事例: 茶
- ④大航海時代: 1 ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代: 2 中核国の推移
- ⑦大航海時代: 3 オランダ・イギリスの勃興
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖
- ⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地: 過去・現在
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計 2 本提出する。

- ・成績評価レポート① 20%
- ・レポート② 30%
- ・期末テスト 50%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習として VOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語 (日本語字幕版) 11、14』『素晴らしい列車の旅 パイリンガル版 4 (東南アジア豪華な気分)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998 年。081/C-1/596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

rekishiq@aol.com

歴史学Ⅱ History II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代（近世・近代）に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっているが、年表にあらわれることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18世紀末から19世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心にみていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

2. キーワード

都市史、社会史、文化史、工業化、イギリス、ロンドン

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別事例 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 社会分極化
- ⑧小テスト
- ⑨ 4 都市文化
- ⑩ 5 新興都市
- ⑪ 6 都市化・工業化
- ⑫ 7 貧困と福祉
- ⑬ 8 植民地と都市
- ⑭ 9 都市と外国人
- ⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

小テスト 20% 2問（各10点）

レポート 20%

期末テスト 60% 3問（25点2問、30点1問）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史 英語（日本語字幕版）7、8、11、14』（図書館HP参照）の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3/I-1/b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

rekishiq@aol.com

文学Ⅰ Literature Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

文体論・物語論・テーマ論

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。文学の読書法について
- 第2回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第3回 泉鏡花『高野聖』
- 第4回 島崎藤村『破戒』
- 第5回 夏目漱石『こころ』
- 第6回 森鷗外『高瀬舟』
- 第7回 芥川龍之介『奉教人の死』
- 第8回 宮沢賢治『よだかの星』
- 第9回 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第10回 川端康成『雪国』
- 第11回 太宰治『人間失格』
- 第12回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第13回 遠藤周作『海と毒薬』
- 第14回 近代文学のジャンル
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80％）出席および授業への積極的態状況（20％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るの、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『文学を読む』花書院 910.2/O-34

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学人間科学部荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

備考

月曜1限月曜2限

文学Ⅱ Literature Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、現代文学を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。文学の表現について
- 第2回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（一）
- 第3回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（二）
- 第4回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（三）
- 第5回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（四）
- 第6回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（五）
- 第7回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（六）
- 第8回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（七）
- 第9回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（八）
- 第10回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（一）
- 第11回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（二）
- 第12回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（三）
- 第13回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（四）
- 第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（五）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80％）出席および授業への積極的態度（20％）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るの、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『宮沢賢治を読む』（花書院）ISBN: 9784905324300

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学人間科学部

荻原研究室（ogihara@kwuc.ac.jp）

備考

月曜1限月曜2限

心理学Ⅰ Psychology I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 兄玉 恵美

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の目的

人間の心や行動について理解を深めることを目的とする。その際、できるだけ身近な題材を取り上げた講義を通して、知的な理解に留まることなく、自らの体験と照らし合わせて理解していくことを目指す。

●授業の位置づけ

心理学は人間の心を対象としており、いつも私たちと共にある学問である。そして、人間のかかわるあらゆる事象を扱うため、非常に多様な学問となっている。授業では、幅広い分野からなる心理学を広く概観する。

2. キーワード

学習、発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

- ①人間が周囲の情報を捉えて処理する仕組みがわかる。
- ②自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。
- ③心の病理についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・心理学とは？
- 第2回 知覚とは
- 第3回 学習とは
- 第4回 記憶とは
- 第5回 発達とは
- 第6回 性格とは
- 第7回 自己とは①
- 第8回 自己とは②
- 第9回 自己とは③
- 第10回 青年期に生きる①
- 第11回 青年期に生きる②
- 第12回 心の病理と健康①
- 第13回 心の病理と健康②
- 第14回 心の病理と健康③
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、出席状況 20%で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2003）サイエンス社

8. オフィスアワー

心理学Ⅱ Psychology II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 兄玉 恵美

1. 概要

（月曜 1・2 限）

●授業の目的

性格が、内的要因・外的要因・自己形成の要因など、さまざまに影響し合って作られ、変化していくことを知り、自分や他者に対しての理解を深める。

●授業の位置づけ

自分らしさはどのように作られているのだろうか。はじめに代表的な理論を通して、性格に関する基礎的な知識を学ぶ。また、他者との関わり、文化との交わりがどのように自分らしさに影響を及ぼしているのかについて、身近な事象を取り上げ体験的な理解を促す。

2. キーワード

性格、心理査定、人間関係、文化、性

3. 到達目標

- ①自分の性格について自己理解を深めることができる。
- ②自分の周りの人について理解を深めることができる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 性格の捉え方①
- 第3回 性格の捉え方②
- 第4回 性格の形成要因
- 第5回 性格の変化
- 第6回 心理査定法①
- 第7回 心理査定法②
- 第8回 心理査定法③
- 第9回 心理療法
- 第10回 人間関係①
- 第11回 人間関係②
- 第12回 文化と性格①
- 第13回 文化と性格②
- 第14回 性役割
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、出席状況 20%で評価する。
60 点以上で合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

必要に応じて紹介する。

8. オフィスアワー

教育心理学 Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の目的

人間理解を深め、集団や個に応じた教育を行うための基礎知識と考え方を学ぶ。そして、授業で得られた知見を教育の実践の場で応用できるようになる。

●授業の位置づけ

授業では、教育心理学で必要な知識である、発達、学習、評価、学級集団、人格・適応を学ぶ。そして、これらの学びをより深めるために、教育心理学だけではなく様々な領域の心理学的知見について総合的に学ぶ。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、臨床心理学

3. 到達目標

- ①教育にかかわる心理学の基礎的な知識を理解できる。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につける。

4. 授業計画

- 1 回 オリエンテーション・教育心理学とは？
- 2 回 発達① 発達に影響を与える要因や発達課題
- 3 回 発達②
- 4 回 発達③
- 5 回 学習① 動機付け、学習意欲、記憶
- 6 回 学習②
- 7 回 学習③
- 8 回 教育評価① 様々な教育評価方法や学力観
- 9 回 教育評価②
- 10 回 学級集団の理解
- 11 回 人格と適応① 人格と適応の諸理論
- 12 回 人格と適応②
- 13 回 人格と適応③
- 14 回 学校臨床
- 15 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト 80%、出席状況 20%で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

大村彰道編『教育心理学Ⅰ 発達と学習指導の心理学』（1996）
東京大学出版会

下山晴彦編『教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学』（1998）
東京大学出版会

子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司『教育心理学〔新版〕ベーシック現代心理学6』（2003）有斐閣

8. オフィスアワー

教育学Ⅰ PedagogyⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

現代日本の教育問題・社会問題について、臨床社会学の立場から講義する。講義を通して、教育問題や社会問題に関する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している言説を相対化しうする視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置づけ

本講義では、臨床社会学という立場から教育問題や社会問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

教育問題・教育病理 社会問題・社会病理 臨床教育社会学
社会問題の構築主義

3. 到達目標

- ①現代日本の教育問題・社会問題に関する理解を深める。
- ②教育問題・社会問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を獲得する。
- ③中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 臨床教育社会学と社会問題の構築主義
- 2 回 被害者なき犯罪Ⅰ－薬物事犯－
- 3 回 被害者なき犯罪Ⅱ－墮胎－
- 4 回 被害者なき犯罪Ⅲ－性風俗犯－
- 5 回 生殖技術のポリティクス
- 6 回 児童虐待Ⅰ
- 7 回 児童虐待Ⅱ
- 8 回 児童虐待Ⅲ
- 9 回 中間テスト
- 10 回 家庭教育と格差社会
- 11 回 子どもの貧困Ⅰ
- 12 回 子どもの貧困Ⅱ
- 13 回 現代の家族政策
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 40%

期末レポート 60%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

酒井朗編著『学校臨床社会学』放送大学出版会 375.9/H-4

浜井浩一他『犯罪不安社会』光文社 368.6/H-2

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ Pedagogy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜 2 限）

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観 日本国憲法 子どもの権利条約 自己決定権

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 子どもの権利条約
- 3 回 校則問題
- 4 回 公教育と宗教
- 5 回 法の下での平等と教育
- 6 回 内申書開示請求事件
- 7 回 教育権論争
- 8 回 中間テスト
- 9 回 体罰
- 10 回 学校事故
- 11 回 いじめ自殺
- 12 回 淫行規制
- 13 回 メディア規制
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%

期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3

佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 本館 図書館 373.2/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education ◎ the 1 stperiod ◎ Monday

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 「子ども」と「大人」の境界線
- 2 回 教える者、教えられる者
- 3 回 発達と社会化
- 4 回 人間の発達段階
- 5 回 中間テストⅠ
- 6 回 学校制度の国際比較
- 7 回 公教育の歴史と制度
- 8 回 教育改革の動向
- 9 回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10 回 中間テストⅡ
- 11 回 不登校という選択
- 12 回 「いじめ」とは何か？
- 13 回 教育のリストラクチャリング
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%

期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献

柴田義松他『教育原論』学文社 371/S-13

田嶋一『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目) 学年: 1・2 年次

学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互规定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 家族をめぐる諸問題
- 2 回 文化的再生産と教育
- 3 回 エスニシティと教育
- 4 回 ジェンダーと教育
- 5 回 中間テスト I
- 6 回 メディアと教育
- 7 回 現代の子ども文化
- 8 回 現代の若者文化
- 9 回 少年犯罪言説と少年法
- 10 回 少年司法のポリティクス
- 11 回 中間テスト II
- 12 回 組織としての学校
- 13 回 カリキュラムの社会学
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%

期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は、必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を

撰取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学 Introduction to Japanese Law

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになること。

4. 授業計画

第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観

第2回 法律とは何か、判例とは何か

第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。

第4回 法律の解釈の仕方を知る①—解釈の方法

第5回 法律の解釈の仕方を知る②—解釈技術

第6回 私法入門—民法の指導原理

第7回 民法上の権利

第8回 権利の限界—私権の公共性

第9回 権利の担い手としての資格①—権利能力

第10回 権利の担い手としての資格②—制限行為能力

第11回 権利の対象となる財産

第12回 取引行為と法①—取引行為の有効要件

第13回 取引行為と法②—無効となる取引

第14回 取引行為と法③—取り消すことができる取引

第15回 試験

第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 教科書・参考書

●教科書

1) 五十嵐 清著 私法入門〔改訂3版〕有斐閣 324/I-2

2) 石川他編集代表『法学六法 '13』信山社 320.9/I-1

●参考書

1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂〔補訂版〕法学 日本評論社 321/N-8

2) 佐藤幸治他著『法律学入門〔第3版〕』有斐閣 321/S-6

3) 我妻栄＝有泉亨＝川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324 ISBN：4326450738

4) 川井 健『民法総則第3版』有斐閣 324 ISBN：4641134324

8. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならぬ時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材をえることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっていのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①－国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③－裁判所・憲法保障
- 第15回 試験
- 第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版補訂版〕有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他編集代表『法学六法 ’13』信山社 320.9/I-1

●参考書

- 1) 清宮 四郎 著 憲法Ⅰ〔第3版〕有斐閣 323.1/K-12/1
- 2) 宮沢 俊義 著 憲法Ⅱ〔新版〕有斐閣 323.1/K-12/2
- 3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5/5
- 4) 芦部 信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店 323.1/A-10

8. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

社会学Ⅰ SociologyⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 大畠 啓

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

21 世紀を迎え私たちの社会の仕組みは大きく変化している。グローバル化や少子高齢化などのマクロな社会変化は、私たちの日常のミクロな出来事（親密性の変化、いじめ問題など）に影響を与えている。同時に、私たちのミクロな実践は、社会の仕組みを変える可能性も秘めている（反原発運動など）。つまり私たちは組織の人間としてのみ生きているのではない。市民として、住民として、様々な立場から社会を構成している。それゆえ社会と日常をつなぐ社会学的な想像力の獲得が、現代を読み解き、よく生きるためには必要である。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について理解し、現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会学的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会的行為、社会集団、社会構造、アノミー、行為の意図せざる結果、官僚制、核家族、格差社会、グローバル化、統合

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方・考え方について理解する。
- ②「集団・組織」「官僚制」「家族」「階層・社会移動」「グローバル化」「逸脱」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会学的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション（1）
- 第2回 オリエンテーション（2）
- 第3回 オリエンテーション（3）
- 第4回 社会学的なものの見方（1）－文化概念
- 第5回 社会学的なものの見方（2）－社会概念
- 第6回 集団と組織（1）－集団・組織とは何か
- 第7回 集団と組織（2）－現代の集団・組織の諸問題
- 第8回 家族（1）－その多様性と普遍性
- 第9回 家族（2）－「近代家族」の諸問題
- 第10回 家族（3）－近代化・産業化・核家族化
- 第11回 階層と社会移動（1）
－社会的不平等をどのように測定するのか
- 第12回 階層と社会移動（2）－所得の不平等の趨勢
- 第13回 階層と社会移動（3）－職業的地位の世代間継承の趨勢
- 第14回 逸脱行動と社会統制（1）－逸脱とは何か
- 第15回 逸脱行動と社会統制（2）－「安全な社会」とは

5. 評価の方法・基準

期末試験（レポート）をもとに総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

広く社会現象や現代人の生き方に関心がある人は、以下の点に注意して授業に参加すること。

- (1) 毎日新聞を読むこと。
- (2) テレビのニュース・ドキュメンタリー番組を見ること。
- (3) 各出版社の新書（岩波新書や講談社現代新書、ちくま新書など）に、どのようなものが出ているかに目を配り、興味をひくものがあれば読むこと。レポートを書くときに役立つ。よく聞き、きちんとノートを取り、考えること。

7. 教科書・参考書

『現代の社会学的解説』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

その他、適宜、プリントを配布する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後の休み時間に受けつける。

社会学Ⅰ Sociology Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 高野 和良

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

地域社会、とりわけ農村で進む高齢化、少子化によってもたらされる諸問題と、産業化、都市化といった全体社会の変動との関係を説明する。

●授業の目的

実証的に地域社会、福祉課題を捉える方法論と社会学、地域福祉の理論とを、具体的な事例を取り上げつつ紹介することによって、人口減少社会である農村の福祉課題の実態、それらが生起する社会背景、解決に向けての手がかりなどをつかむことを目的とする。

●授業の位置づけ

これは金曜日の 2 限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

家族、農村、過疎、高齢化、地域福祉など。

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方・考え方について理解する。
- ②「集団・組織」、「家族」、「階層・社会移動」、「グローバル化」「地域社会」「高齢化と福祉」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第 1 回 社会福祉と社会学
- 第 2 回 日本社会における「家」1
- 第 3 回 日本社会における「家」2
- 第 4 回 家族形態の変動 1
- 第 5 回 家族形態の変動 2
- 第 6 回 農村の変動 1
- 第 7 回 農村の変動 2
- 第 8 回 過疎地域の現状と課題
- 第 9 回 農村の高齢化と福祉問題 1
- 第 10 回 農村の高齢化と福祉問題 2
- 第 11 回 農村の高齢化と福祉問題 3
- 第 12 回 農村の高齢化と福祉問題 4
- 第 13 回 農村の高齢化と福祉問題 5
- 第 14 回 農村の高齢化と福祉問題 6
- 第 15 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（85%）、出席（15%）で評価する。
100 点満点のうち 60 点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外では講義の内容を整理した上で、適宜紹介する文献を参考にしながら、理解を深める。

7. 教科書・参考書

●教科書

堤マサエ・徳野貞雄・山本努編、2008、『地方からの社会学』学文社 361.7/T-5

その他については、講義中に紹介する。

8. オフィスアワー

講義中、授業終了後の時間などに質問等は受け付ける。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堤 圭史郎

1. 概要

（月曜 1・2 限）

●授業の背景

社会学は人びとが形づくる社会生活や集団、社会について調べ、色々な社会現象が起こるメカニズムを研究する学問である。私たちの社会には皆がよく知る社会現象や社会問題もあるが、あまりにも自明であるため見過ごされがち（もしくは私たちがあえて見ないようにしている）物事もたくさんある。社会学という学問の最も重要な役割は、日常において「あたりまえ」「当然のもの」と見えている事象を常に疑い、批判的に捉えなおすことにある。そうした「社会的なもの」を通して私たちの社会にある諸現実を捉え返したならば、その「現実」とはこれまでとは全く異なった様相で出てくるかもしれない。本講義を受講生諸君が、市民として住民として、そして職業人として、社会と人間について深く理解した上で社会にはたらきかける力を身につける契機にしたい。

●授業の目的

「犯罪」「非行」「差別」等の社会現象を通して、社会的なもの見方・考え方を学ぶ。現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日 1 限と 2 限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会的行為、相互行為、社会関係、社会集団、社会構造、社会的意味世界、規範、逸脱、犯罪、非行、差別、偏見、近代、資本制、イデオロギー、絆、正常／異常

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方・考え方について理解する。
- ②「犯罪」「非行」「差別」等のテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第 1 回 ガイダンス どのようなことを学ぶのか
- 第 2 回 社会的存在としての人間
- 第 3 回 社会的見地からみた人間の行為（1）
お手本とものさし
- 第 4 回 社会的見地からみた人間の行為（2）
ダニと人間はどう違うか
- 第 5 回 社会的見地からみた人間の行為（3）
よく当たる占いはなぜよく当たるのか
- 第 6 回 ものの見方としての「逸脱」
- 第 7 回 逸脱は学習される～マリファナ使用者
- 第 8 回 ホワイトカラーの逸脱～企業犯罪
- 第 9 回 社会の圧力が逸脱をもたらす～多重債務
- 第 10 回 つながりの欠如が逸脱をもたらす～少年非行
- 第 11 回 「レッテル貼り」が逸脱をもたらす～冤罪
- 第 12 回 社会問題はつくられる
- 第 13 回 「犯罪凶悪化論」への社会的検討
- 第 14 回 「ニート問題」への社会的検討
- 第 15 回 まとめと課題

5. 評価の方法・基準

学期末テスト（80%）、小課題（20%）をもとに総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・資料を収めるファイル、ノートを用意すること。
- ・板書をメモするだけでなく、講義の中で重要だと思った点や関

心を惹かれた点、疑問点等を適宜ノートにメモする習慣をつけること。

- ・講義の最後にコミュニケーション・カードを書いて、必ず提出すること。用紙は担当者が用意する。
- ・講義で多くふれられない事項については資料を配布する。次回までに必ず読んでおくこと。紹介する参考文献も手に取ってみてほしい。また、講義で学んだことについて、お茶を飲みながら友達と話をするとよい。

7. 教科書・参考書

教科書は指定しない。資料・プリントを講義時に配布する。また適宜写真・映像等を活用する。参考書は講義期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後の休み時間に受けつける。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ (金曜2限)

対象学科(コース): 全学科 学年: 2・3年次

学期: 後期 単位区分: 選択必修 単位数: 2単位

担当教員名 園田 浩之

1. 概要

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離において眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション(選択肢)がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段(日常)がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方(社会学的想像力)と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会」というもののリアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想(その独自性と豊かさ)にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」(より豊かで、柔軟で、批判的な見方)に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的に」捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。とりわけ、現代社会における「自己」のありよう、他者との関わり((ディス)コミュニケーション)を切り口に、身のまわりにある具体的な文化現象を取り上げながら、社会の現在を生きる人々(とりわけ若者)の自由と不自由を描き出してみたい。社会学をつうじた「日常(ふだん)」の再発見によって、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義にしたい。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにいくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。

2. キーワード

社会の現在と自己(アイデンティティ)、ポストモダン(現代)、(ディス)コミュニケーション、生きづらさ、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義(性能)を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点(別の見方/複眼的な見方)の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考(と想像力)の回路を受講者各自のうちに開いていくこと(と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらい理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること)。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさと空虚さ(あるいは、自由さと不自由さ)の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学的想像力のために
- 第2回 あたりまえをみるために
- 第3回 「日常世界」と「私」の成り立ち
- 第4回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会学的な問題①)
- 第5回 現代社会における自己
(アイデンティティをめぐる社会学的な問題②)
- 第6回 多元化し分散する自己
- 第7回 若者のコミュニケーションと社会の現在①
(その現実と日常)
- 第8回 若者のコミュニケーションと社会の現在②

(その豊かさと病理)

- 第9回 若者文化を/から社会的に考える(若者論再考①)
 第10回 若者文化を/から社会的に考える(若者論再考②)
 第11回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
 (不確かな生)①
 第12回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
 (不可解な他者)②
 第13回 つながりの不安と過剰
 (「ディス」コミュニケーションからみる現代社会①)
 第14回 つながりの不安と過剰
 (「ディス」コミュニケーションからみる現代社会②)
 第15回 社会学の使いみち(不安と危機の向こう側へ?)

5. 評価の方法・基準

(講義への一定の出席と参加を条件としたうえで)、講義中のコメントペーパー&小レポート(20%)、学期末試験(80%)によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

何気ない日常(の成り立ち)を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい(あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む)。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 教科書・参考書

テキストは使用しない(講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める)。また、講義で扱う事柄(テーマ)に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができればと思う。

8. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に(あるいは講義中にも)、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ (月曜1・2限)

対象学科(コース):全学科 学年:1・2年次

学期:前期 単位区分:選択必修 単位数:2単位

担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、消費者や企業の行動原理を説明するミクロ経済学の基本的な概念を解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心を持てるようにする。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 経済学とは(1)
- 3回 経済学とは(2)
- 4回 世界の経済情勢
- 5回 日本経済の動向
- 6回 需要と供給(1)
- 7回 需要と供給(2)
- 8回 需要曲線と消費者行動(1)
- 9回 需要曲線と消費者行動(2)
- 10回 費用の構造と供給行動(1)
- 11回 費用の構造と供給行動(2)
- 12回 市場取引と資源配分(1)
- 13回 市場取引と資源配分(2)
- 14回 ミクロ経済学の応用
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

出席状況と期末試験(あるいはレポート)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『ミクロ経済学(第2版)』日本評論社 331/I-25/2

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになりましょう。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ（金曜2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、消費者や企業の行動原理を説明するミクロ経済学の基本的な概念を解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」

3. 到達目標

- ①ミクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 経済学とは（1）
- 3回 経済学とは（2）
- 4回 世界の経済情勢
- 5回 日本経済の動向
- 6回 需要と供給（1）
- 7回 需要と供給（2）
- 8回 需要曲線と消費者行動（1）
- 9回 需要曲線と消費者行動（2）
- 10回 費用の構造と供給行動（1）
- 11回 費用の構造と供給行動（2）
- 12回 市場取引と資源配分（1）
- 13回 市場取引と資源配分（2）
- 14回 ミクロ経済学的应用
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験（あるいは最終レポート）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社 331/I-25/2

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

経済学Ⅱ EconomicsⅡ（月曜1・2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：1・2年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、国内外の経済情勢を概観するとともに、マクロ経済学の基本的な概念やメカニズムを解説する。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「マクロ経済学」、「総需要」、「総供給」、「有効需要」、「財政政策」、「金融政策」

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 経済学とは（1）
- 3回 経済学とは（2）
- 4回 世界の経済情勢
- 5回 日本経済の動向
- 6回 マクロ経済における需要と供給
- 7回 有効需要と乗数メカニズム
- 8回 貨幣の機能と信用創造
- 9回 貨幣需要と利子率
- 10回 財政政策の基本的構造
- 11回 財政・金融政策とマクロ経済
- 12回 総需要と総供給
- 13回 労働市場の機能と失業問題
- 14回 インフレーションとデフレーション
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

出席状況と期末試験（あるいはレポート）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『マクロ経済学』日本評論社 331/I-21

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

政治学Ⅰ Political Science I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これを用いた討論などを重んじる。政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
- 第3回 ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
- 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
- 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ（1）
- 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ（2）
- 第7回 政官関係・公益法人論など
- 第8回 戦争と政治（1）
- 第9回 戦争と政治（2）
- 第10回 従来の講義の補足と展開
- 第11回 ナショナリズム論（1）
- 第12回 ナショナリズム論（2）
- 第13回 市民的实践とNGO
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）およびレポートの結果（20%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日 12 時～13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ Political Science I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜2限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義（1）
- 第4回 自由主義と民主主義（2）
- 第5回 現実主義（1）
- 第6回 現実主義（2）
- 第7回 従来の講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任（1）
- 第9回 政治的責任（2）
- 第10回 保守主義（1）
- 第11回 保守主義（2）
- 第12回 従来の講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日 12 時～13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互
 連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に
 重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等
 の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識
 の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通行的な講義＝筆記で
 はなく、学生諸君の調査・発表（インターネット等も活用）、こ
 れをうけた討論等を特に重視する。政治学は民主主義国の市民
 あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといって
 それを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、
 高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象
 は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこで
 この講義では、学問としての作法にしたがひながら、政治現象と
 思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と
 日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学につ
 いて考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見
 や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治
 学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文
 化主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプ
 ローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理
 解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 教育と政治、民主主義との関連など
- 第3回 教育と政治、ケース・スタディ（1）
- 第4回 教育と政治、ケース・スタディ（2）
- 第5回 教育と政治、ケース・スタディ（3）
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治
- 第8回 開発と地方自治
- 第9回 戦争責任論
- 第10回 開発をめぐる国際政治（1）
- 第11回 開発をめぐる国際政治（2）
- 第12回 軍事化と平和研究
- 第13回 補足と展開
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変
 更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）およびレポートの結果（20%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる
 総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは
 初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々
 の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生
 き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学
 生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢
 を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでく
 るのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日 12 時～13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、
 オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional Studies Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速
 に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況
 を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。し
 かし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方
 で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化
 の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外
 見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現
 する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情
 なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が
 微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっている
 のも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じ
 させる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心し
 てきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように
 見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程
 で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王
 国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシア
 からはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々で
 あるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や
 呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。ま
 たタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘ぎ
 あいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な
 状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模な
 コミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、
 構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるよ
 うになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える 1 Hip-Hopの感染力その 1
- 第5回 親族の解釈学 1 親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学 2 普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学 3 相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える 2 アイドルの普遍性その 1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える 3 ロックの浸透力その 1
- 第13回 世界観パート 1 構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート 2 構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939
- 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology., Holt, Rinehart and Winston, inc. ISBN: 0030732557
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目) 学年: 1・2 年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

(金曜 2 限)

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰(伝統の新たな発明であるが)やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ(ミャンマー)及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ること、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える 1 Hip-Hopの感染力その1
- 第5回 親族の解釈学 1 親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学 2 普遍的な解釈(親族の代数学)
- 第7回 親族の解釈学 3 相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える 2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える 3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1 構造主義入門: 親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2 構造主義の展開編: 神話分析(あるいは「奇妙な言説」の解読法)
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート(95%)、出席(5%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂。ISBN: 4335051131
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との間を具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
- 第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか《その①》
- 第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか《その②》
- 第8回 グローバル化を考える 4 Hip-Hopの感染力その2
- 第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
- 第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰－祖先の祟りを巡って－
- 第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界－隠喩のフォース－
- 第12回 グローバル化を考える 5 ロックの浸透力その2
- 第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念－劇場国家論
- 第14回 東南アジアの伝統的国家概念－銀河政体論

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との聞きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教（呪術）・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論。

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理（宗教・呪術の定義を中心に）
- 第2回 呪術論基礎（1）－表現的行為（象徴的コミュニケーション）と技術的行為
- 第3回 呪術論基礎（2）－呪術の効果を巡って
- 第4回 グローバル化を考える 3 Hip-Hopの感染力その2
- 第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼
- 第6回 事例検討2：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の妖術を中心に。因果関係とは何か
- 第7回 事例検討3：言語行為論－アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力
- 第8回 グローバル化を考える 4 ロックの浸透力
- 第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
- 第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病気治療
- 第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：妖術と祖先霊
- 第12回 東南アジアの国家論①－19世紀バリの都市国家：劇場国

家論。

第13回 東南アジアの国家論②ータイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論

第14回 総括

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るのに注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves.
The University of Chicago Press. 389/W-3

2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action
An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
ISBN: 0674179692

3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion.,
Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

職業と社会 A Occupation and Society A（金曜 2 限）

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜 2 限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら、政治学・社会学・行政学など社会科学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。

具体的なテーマとしては、ポスト産業社会化とグローバリゼーションの下での現代政治の諸課題を中心に検討する。その検討においては、職業や労働の問題との関連を重視する。

後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、多元主義、職業観、貧困

3. 到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得

②上記の諸概念などを用いた分析の訓練

③いくつかの代表的な現代の政治・社会の問題・課題についての理解

④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解

⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

第1回 本講義の内容と方式の説明

第2回 予備的な講義とディスカッション

第3回 自由主義をめぐって（1）

第4回 自由主義をめぐって（2）

第5回 現代社会の特質（1）（3）

第6回 現代社会の特質（2）

第7回 現代社会の特質（3）

第8回 従来の講義の補足と展開

第9回 「貧困」をめぐって（1）

第10回 「貧困」をめぐって（2）

第11回 多元主義（1）

第12回 多元主義（2）

第13回 自由テーマ（1）

第14回 自由テーマ（2）

第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では多方面の知識（の習得）が求められる。かつ、テーマは、職業・労働という学生諸君の切実な問題に関わっている。そこで、現代社会・世界史・日本史・思想等々の基本的な概念や知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日 12 時－13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

職業と社会B Occupation and Society B (金曜2限)

対象学科(コース):全学科 学年:2・3年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

経済学は、様々な社会問題を説明できる学問である。本講義では、国内外の経済情勢を概観するとともに、マクロ経済学の基本的な概念やメカニズムを解説する。また、マクロ経済の体系を学ぶ中で労働市場の位置づけを理解し、そもそも「雇用」とは何かについての理解を深める。

●授業の位置付け

経済学がどのような目的や手法をもち、私達の身近にある様々な問題と関わっているのかについて興味関心が持てるようになる。

2. キーワード

「マクロ経済」、「雇用」、「労働市場」、「総需要」、「総供給」、「財政政策」、「金融政策」

3. 到達目標

- ①マクロ経済学の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②労働市場の機能や「雇用」に対する理解を深める。
- ③日々の経済に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 経済学とは(1)
- 3回 経済学とは(2)
- 4回 世界の経済情勢
- 5回 日本経済の動向と雇用情勢
- 6回 マクロ経済における需要と供給
- 7回 有効需要と乗数メカニズム
- 8回 貨幣の機能と信用創造
- 9回 貨幣需要と利子率
- 10回 財政政策の基本的構造
- 11回 財政・金融政策とマクロ経済
- 12回 総需要と総供給
- 13回 労働市場の機能と失業問題
- 14回 インフレーションとデフレーション
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

出席状況と、中間レポート及び期末試験(あるいは最終レポート)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義初回に指定する教科書の内容に基づいて講義を進める予定である。その他詳細な注意事項については講義初回に説明する。

7. 教科書・参考書

伊藤元重著『マクロ経済学』日本評論社 331/I-21
 その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学は比較的生活実感のしやすい学問分野であるため、勉強の素材が周りにたくさんあります。本講義を通して、今まで気付かなかった経済現象に気付けるようになります。

職業と社会C Occupation and Society C (金曜2限)

対象学科(コース):全学科(人間科学科目) 学年:2・3年次
 学期:後期 単位区分:選択必修 単位数:2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

(金曜2限)

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的立場へと振り分ける選抜・配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

2. キーワード

選抜・配分 人材養成・人的資本論 教育投資 教育政策・教育改革 高等教育

3. 到達目標

- ①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
- ②現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
- ③文章表現能力を身につけること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 高校改革と高卒労働市場
- 2回 大学改革の現状
- 3回 大学におけるキャリア教育と大卒労働市場
- 4回 大学教育の収益率Ⅰ
- 5回 大学教育の収益率Ⅱ
- 6回 高学歴化と職業構造の変化Ⅰ
- 7回 高学歴化と職業構造の変化Ⅱ
- 8回 中間テスト
- 9回 採用への道
- 10回 ニート・フリーター問題Ⅰ
- 11回 ニート・フリーター問題Ⅱ
- 12回 労働とジェンダー
- 13回 過労死・過労自殺
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%
 期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献に各自目を通すこと。
- ②政策文書、各大学のホームページ、企業の求人広告、就職サイトなどに授業時間外に目を通し、大学や就職に関する基礎的な知識を身につけておくこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

マーチン・トロウ『高学歴社会の大学』新潮選書 377/T-3
 天野郁夫『学歴の社会史』UP 選書 372.1/A-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

日本語表現法 A Japanese Writing A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の概要

他人に伝わる文章を書く前提として、インターネットに頼らない調査の仕方および文献の基本的な読解力を身につける。特定の主題についてのさまざまな説を比較検討するやり方を学び、期末にはある程度の長さのレポートが作成できるようにする。

本講義は、2、3 年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

文献調査、要約、翻訳

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、文献調査、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第 1～2 回 辞書を引く
- 第 3～5 回 文献調査のやり方
- 第 6 回 レポート検討 I
- 第 7～8 回 要約を作る
- 第 9～11 回 翻訳をする
- 第 12 回 レポート検討 II
- 第 13～15 回 論理的推論のやり方

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる 2 回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各 25%、期末レポート 50%。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講時に述べる。

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

日本語表現法 B Japanese Writing B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「資源」「開発」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。資源を保有する地域が豊かであると考えるのが一般的なのかもしれない。しかし、世界には資源を保有しているにもかかわらず、その恩恵が人々に十分にいきわたらず、社会に大きな格差が生まれている地域も多い。これらについて調べ、自分のテーマを立てて日本語で表現することはグローバル時代の工学士にとって重要である。

●授業の目的

特定の資源について調査し、時代や地域の背景への認識を深め、自分の思考を表現する。

●授業の位置づけ

資源や開発は歴史と現代の世界情勢を理解する重要なキーワードである。日本語表現の技法を習得し、キーワードに即して教養としての表現力を高める。

2. キーワード

「日本語表現」「資源」「世界」

3. 到達目標

- ①資料収集・整理し立論する方法を身につける。
- ②他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート 1 提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート 2 提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表
- ⑭ファイナルレポート提出⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

中間レポート 30%
期末レポート 40%
授業内課題 30%
総合評価 60%以上が合格

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書・参考書

授業内で適宜指示する。

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。
rekishiq@aol.com

日本語表現法 C Japanese Writing C

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2・3 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子・橘 武史

1. 概要

●授業の目的

中心に述べられていること、キーワードなどを意識しながら話を聞き取る力を養う。まとまりのある文章を書く力を養う。論理的に考え、根拠をきちんと示して自分の意見を述べる力を養う。また、エンジニアとして科学日本語に出会う場面を知り、どのようなコミュニケーション能力が必要か考える。

●授業の位置付け

2 年生以上で、エンジニアとして必要なコミュニケーション能力を身に付けたい、つまり、事実に基づいて考察し、自分の意見を明確に述べるができるようになりたいと思う学生を対象とする。

2. キーワード

「科学技術」「要旨」「考察文」「根拠」「エンジニア」

3. 到達目標

- ・資料を収集・整理し立論する方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

科学技術を題材にした視聴覚資料あるいは講演を聴いて、まず文章の構成を考えつつ要旨をまとめる練習をする。その要旨についてピア（学生同士）の評価を行う。次に、その技術の意義や将来性について討議し、根拠を示しつつ自分の考えをまとめる練習をする。

第1回 オリエンテーション：

エンジニアに必要なコミュニケーション能力とは

第2回 科学日本語の現場（橘武史先生）

第3回 読み手を意識した要旨（1）ピア評価の試み

第4回 読み手を意識した要旨（2）序・結語に書くべきこと

第5回 読み手を意識した要旨（3）本論のチェック

第6回 誤解されない表現（橘武史先生）

第7回 読み手を意識した要旨（4）自己評価のポイント

第8回 自分の考えを書く（1）

意見を出し合う、グループワーク

第9回 自分の考えを書く（2）別の視点から見たら？

第10回 自分の考えを書く（3）将来的には？

第11回 視点を広げる（橘武史先生）

第12回 講演を聴いて討議する（1）

第13回 講演を聴いて討議する（2）

第14回 まとめレポートのためのフォーラム

第15回 まとめ—自己評価と授業評価—

5. 評価の方法・基準

毎回の課題（50%）、授業への参加度（20%）、考察文課題（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をよく推敲して提出すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日 4 限

アブドゥハン研究室（総合教育棟 303 教員室）

哲学と現代 I Contemporary Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止

第4回～第6回 思考停止するマスメディア

第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止

第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか

第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価の方法・基準

レポート 60%、毎回の発表と、討論への参加度 40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

郷原信郎『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第2回 ニセ科学

第3回～第5回 自然志向の罫

第6回～第9回 警鐘報道の功罪

第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：前期・後期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

3. 到達目標

＜レポートに関する目標＞

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション（2回）
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）

＜個別発表に関する目標＞

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表

⑭ファイナルレポート提出⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

プログレス・レポート1 25% (上記レポート目標①から④各25%)

プログレス・レポート2 30% (①から⑤各20%)

ファイナル・レポート 40% (①から⑤各20%)

発表および質疑 5% * 総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書・参考書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。
502/B-4/1～3 (担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出)

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ Japanese Politics, Past and Present Ⅰ

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目)

学年: 2・3・4年次 学期: 前期 単位区分: 選択

単位数: 2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本(の抜粋)や資料などを精読して学問的に(ジャーナリストチックに、ではなく)学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国(史)的な視野におちいるためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治(制度)論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得

②上記の諸概念などを用いた分析の訓練

③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解

④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解

⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

第1回 インTRODakション

第2回 人間性と政治(権力分立の問題など)

第3回 自由・人権観

第4回 戦後社会と管理化(1)

第5回 戦後社会と管理化(2)

第6回 戦後社会と管理化(3)

第7回 東北アジアと日本(1)

第8回 東北アジアと日本(2)

第9回 東北アジアと日本(3)

第10回 補足と展開

第11回 琉球・沖縄と日本(1)

第12回 琉球・沖縄と日本(2)

第13回 宗教と政治(1)

第14回 宗教と政治(2)

第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論(80%)・レポート(20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力(知識、読解・思考、表現等)の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習(自ら補習)することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

●教科書

プリントを配布する他、相談して決定(複数)。

●参考書

講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 自由主義論（1）
 - 第3回 自由主義論（2）
 - 第4回 諸文明と「国際化」（1）
 - 第5回 諸文明と「国際化」（2）
 - 第6回 諸文明と「国際化」（3）
 - 第7回 市民社会論（1）
 - 第8回 市民社会論（2）
 - 第9回 市民社会論（3）
 - 第10回 補足と展開
 - 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）
 - 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）
 - 第13回 政治的リアリズム
 - 第14回 戦後政治をめぐる
 - 第15回 補足とまとめ
- ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書
プリントを配布する他、相談して決定（複数）。
- 参考書
講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日 12時～13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。
 email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域経営論 Regional Management

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

本講義では、地域経営のあり方を検討する上で必要となる視点や考え方を学習する。基本的に、様々な地域問題の原因究明に役立つ学問である「地域経済学」の考え方や理論を中心に講義を進める予定である。また、環境問題や少子高齢化、中心市街地の疲弊など、地域が抱える具体的な課題についても検討する。また、こうした議論を踏まえて新時代における地域経営のあり方について展望する。

●授業の位置付け

地域の実情や地域経済学の基礎理論を学習することで、私達の身近にある様々な地域問題に関心を持ち、今後の地域経営のあり方について考えるための基礎を身につける。なお、本講義は基本的にゼミ形式となる。各回テーマに基づき受講者が輪番で報告を行い、全員で討論する。

2. キーワード

「地域経済」、「地域間格差」、「地域間移動と交易」、「産業立地」、「都市システム」、「地方財政」、「まちづくり」など

3. 到達目標

- ①地域経済学の基礎的体系や理論を学び、地域経営やまちづくりのあり方を議論するための学力を身につける。
- ②地域が抱える問題を発見し、解決に向けた処方箋を検討するための基礎的能力を身につける。
- ③プレゼンテーション及びディベートの技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 地域経済学とは
- 3回 地域の所得形成と地域成長の理論
- 4回 地域間格差と人口移動
- 5回 産業立地の理論
- 6回 都市の成立と発展
- 7回 中心市街地の疲弊とまちづくりのあり方
- 8回 グローバル化と地域
- 9回 環境問題と地域
- 10回 IT化の進展と地域
- 11回 地方財政の悪化と地域
- 12回 少子高齢化と地域
- 13回 産業振興と地域
- 14回 雇用問題と地域
- 15回 住宅問題と地域

5. 評価の方法・基準

報告と討論、レポートで評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義は、基本的にゼミ形式となるため、受講者は積極的な姿勢で講義に臨むことが求められる。特に、報告担当者は十分な準備が必要となる。詳細な注意事項については、初回講義で説明する。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学関連の初級・中級科目等を修得していることが望ましい。ただし、地域経済やまちづくり、地域経営に強い関心があれば必ずしも修得していなくてもよい。

産業組織論 Industrial Organization

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 辻 隆司

1. 概要

●授業の目的

産業の再編成がグローバルな規模で進行するなど、産業・企業を取り巻く環境は劇的に変化しつつある。こうした状況の中、わが国の産業政策や企業経営はどうあるべきか。産業構造の本質を捉えながら、そのあり方を問い直す必要に迫られている。そこで本講義では、産業組織論の基礎理論を学ぶとともに、その基本的な枠組みに沿って現代日本の産業組織と企業経営のあり方について考察する。

●授業の位置付け

産業組織論の学習を通じて、企業行動の理論を理解するとともに、わが国産業経済や企業経営の実態について把握する。なお、本講義は基本的にゼミ形式となる。各回テーマに基づき受講者が輪番で報告を行い、全員で討論する。

2. キーワード

「独占・寡占」、「製品差別化戦略」、「合併・買収」、「研究開発とイノベーション」、「技術開発を巡る企業間の戦略的連携」など

3. 到達目標

- ①産業組織論の基礎的体系や理論を学び、専門用語を習得する。
- ②産業や企業経営に関わる報道の内容や位置づけをある程度判断できるような知識や学力を身につける。
- ③プレゼンテーション及びディベートの技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 産業組織論の対象と方法
- 3回 企業の理論
- 4回 競争と独占の基礎理論
- 5回 寡占
- 6回 製品差別化と競争
- 7回 参入と戦略的行動
- 8回 協調行動と垂直的取引制限
- 9回 市場成果
- 10回 多角化・合併および企業集団
- 11回 研究開発とイノベーション
- 12回 日本の独占禁止政策の展開
- 13回 直接規制政策
- 14回 日本型産業システムの評価
- 15回 わが国産業政策と企業経営のあり方

5. 評価の方法・基準

報告と討論、レポートで評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義は、基本的にゼミ形式となるため、受講者は積極的な姿勢で講義に臨むことが求められる。特に、報告担当者は十分な準備が必要となる。詳細な注意事項については、初回講義で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書：特に指定しない。

参考書：新庄浩二〔編〕『産業組織論』（有斐閣ブックス、1995年）335.3/S-5
 井手秀樹、鳥居昭夫『入門・産業組織』（有斐閣、2010年）335.3/I-16

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: tsuji@dhs.kyutech.ac.jp

備考

経済学関連の初級・中級科目等を修得していることが望ましい。ただし、産業経済や企業経営に強い関心があれば必ずしも修得していなくてもよい。

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択
 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分の関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 少年法

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 校則問題
- 3回 学校とプライバシー
- 4回 法の下での平等と教育（1）－同和教育論－
- 5回 法の下での平等と教育（2）－外国人児童生徒の教育－
- 6回 法の下での平等と教育（3）－障害児教育論－
- 7回 生命倫理と子ども（1）－非嫡出子問題－
- 8回 生命倫理と子ども（2）－生殖医療問題－
- 9回 生命倫理と子ども（3）－中絶問題－
- 10回 日の丸・君が代と学校
- 11回 エホバの証人剣道受講拒否事件
- 12回 教科書検定裁判
- 13回 旭川学力テスト事件
- 14回 パターンナリズム論
- 15回 まとめ
- 16回 試験

5. 評価の方法・基準

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度 50%
 期末レポート 50%
 プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- ・その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない。

●参考文献 授業の中で適宜指定する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③異なる文化、社会について理解する。
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- | | |
|---------|------------------|
| 第1回 | アイスブレイキング：国のイメージ |
| 第2～3回 | 生活 |
| 第4～5回 | 少子高齢社会 |
| 第6～7回 | 教育 |
| 第8～9回 | 企業と労働 |
| 第10～11回 | 科学技術と人間 |
| 第12～13回 | 自然と人間 |
| 第14回 | アジアの未来 |
| 第15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

レポート(60%)及び毎回提出のノート・授業への参加度(40%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

●参考書

- 1) 留学生のための時代を読み解く上級日本語 第2版(スリーエーネットワーク) 810.7/M-41/2

8. オフィスアワー

月曜日3限

選択日本事情B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて考えることができる。
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

学生自身がその時々ニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価の方法・基準

発表(40%)及び毎回のノート(30%)討論への参加度(30%)で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で複数の新聞を読む習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

金曜日3限

英語科目についての概要

総合英語について（必修科目：1、2 年次）

1. 目的および目標

1、2 年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1 年次）については、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養だけでなく、英作文とプレゼンテーション技能の基礎的訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1 年次）は、総合英語 A I / A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、ペンギン・リーダーズ（level 4）やオックスフォード・ブックワームズ（stage 5）などの国際的な読解レベルを目標としている。

総合英語 C I / C II（2 年次）は、総合英語 A I / A II や B I / B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。さらに、上級英語（選択科目）や各学科の英語科目への橋渡しとなる科目でもある。なお、GPA の高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話、作文とプレゼンテーション。）

総合英語 B（読解を中心とする 4 技能。聴解、作文、プレゼンテーションなども行なうことがある。）

総合英語 C（総合英語 A、B を発展させた内容。三つのテーマからの選択制。）

3. 履修上の注意

- 1) 出席率が 3 分の 2 以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第 11 条 2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず担当教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1 年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。意欲的な学生に幅広く対応している。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、視聴覚授業、海外語学研修準備講座、等を随時展開している。外国人と日本人教師の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を 2 コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について（選択科目：2 年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 履修する学生は、総合英語 A と B を履修していることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を 2 コマ、など）
 - 4) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡をとること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Ian Ruxton, Chris O'Sullivan,
Andrew Watt, Mason Lampert, Andrew Gallacher,
Huw Tyler, Akiko Kuriyama, Chiaki Sameshima

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 17:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Ian Ruxton, Chris O'Sullivan,
Andrew Watt, Mason Lampert, Andrew Gallacher,
Huw Tyler, Akiko Kuriyama, Chiaki Sameshima

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

8. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 17:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを覚えるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
第2回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
第3回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
第4回 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
第5回 新聞・雑誌の英語 I
第6回 新聞・雑誌の英語 II
第7回 新聞・雑誌の英語 III
第8回 新聞・雑誌の英語 IV
第9回 エッセイの英語 I
第10回 エッセイの英語 II
第11回 エッセイの英語 III
第12回 エッセイの英語 IV
第13回 プレゼンテーション I
第14回 プレゼンテーション II
第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30％）小レポート（40％）期末レポート（30％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡をすること。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・応用化学（人間科学科目）
学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 7 Hydrogen Beer
3. “
4. 発表
5. Topic 14 Knowing Where You Stand
6. “
7. 発表
8. Topic 19 South Korean Moms Pray for Student Success (I)
9. Topic 20 South Korean Moms Pray for Student Success (II)
10. Topic 19, 20の続き
11. 発表
12. Topic 22 Okinawans
13. “
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40％、発表 10％、期末試験 50％で評価する。総合評価で 60％以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World (朝日出版社) 830.7/K-116
2. World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills 830/C-6

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Slingshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-32

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Thinks ... (1)
3. Thinks ... (2)
4. Thinks ... (3)
5. Locked in Place (1)
6. Locked in Place (2)
7. Locked in Place (3)
8. Review Test 1
9. Why the Mind is in the Head (1)
10. Why the Mind is in the Head (2)
11. Why the Mind is in the Head (3)
12. Why the Mind is in the Head (4)
13. Of Headless Mice ... and Men (1)
14. Of Headless Mice ... and Men (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM（研究社）ISBN: 4327421588

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）
Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6
（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：応用化学・総合システム・建設社会

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学技術や環境問題、自然などの様々な科学に関する題材に英語で触れることで、科学論文の読解能力の基礎を培うことを目標とする。また、与えられた英文の構造、組み立て方を学ぶことで、自らの興味のある題材を英語を用いて発信する能力を育成する。

2. キーワード

科学技術、環境問題、読解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Welcome to My Bower
3. Memory
4. Exotic Species
5. Smells Like Trouble
6. Seven Sisters
7. Review Activity 1
8. Danger-Detecting Animals
9. Denizens of Antarctica
10. Sky Watchers
11. One-Celled Wonder
12. Coral Reef
13. Wind Power
14. Moon Rocks
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- ・授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Square（成美堂）ISBN: 9784791910830

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・

総合システム工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニング&クエスチョンも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 発表と評価
- 第3回 発表と評価
- 第4回 発表と評価
- 第5回 発表と評価
- 第6回 発表と評価
- 第7回 発表と評価
- 第8回 発表と評価
- 第9回 発表と評価
- 第10回 発表と評価
- 第11回 発表と評価
- 第12回 発表と評価
- 第13回 発表と評価
- 第14回 発表と評価
- 第15回 総評

5. 評価の方法・基準

平常点（30%）発表（30%）期末試験（40%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。本文中の疑問点はオフィス・アワーを利用して解決しておく。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- ・辞書
- ・授業で使用するプリントは HP に掲載するので、各自で確認し用意すること。

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Topic 1 Japanese Hit Cartoon Gets US Release
3. Topic 1 の続き
4. 発表
5. Topic 7 Island of Genius
6. Topic 7 の続き
7. 発表
8. Topic 10 The Wordy Woman and the Mute Man
9. Topic 10 の続き
10. 発表
11. Topic 12 From The Red Notebook (I)
12. Topic 12 From The Red Notebook (II)
13. Topic 12 の続き
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べること。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World (朝日出版社) 830.7/K-116
2. World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills 830/C-6

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・

マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Wave
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Gadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- （1）授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- （2）英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- （3）3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：

1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
2. Practical Situations for the TOEIC Test Listening (Seibido) 830.7/Y-32

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。また、リスニングについては、英語でのコミュニケーションに必要な語彙だけでなく、コンテキストの理解を助ける教材を用いることで、実用的な力を身につけることを目指す。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Art of Loving (1)
3. The Art of Loving (2)
4. The Art of Loving (3)
5. The Science of Love (1)
6. The Science of Love (2)
7. The Science of Love (3)
8. Review Test 1
9. Gender Signals (1)
10. Gender Signals (2)
11. Gender Signals (3)
12. The Gay Side of Nature
13. Herland (1)
14. Herland (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM（研究社）ISBN: 4327421588

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：応用化学・総合システム・建設社会

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

科学、政治、歴史、若者文化、女性問題などの多岐にわたるテーマに関するやや難解な英文を読み解く力を育むことを目標とする。また、そのような多岐にわたる話題に関して、自ら知識を増やし、自分自身の意見を持つこと、さらに、その意見を英語で伝えることの練習をする。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Wired
3. Change is Coming
4. Everyday Should Be Earth Day
5. The Roots of Prejudice?
6. The "Story" in History
7. It's How You Play the Game
8. Want Not, Want Not
9. Galaxy Quest
10. Words To Live By
11. Family Values
12. We Can Work It Out
13. Adventures in Learning
14. Well Read
15. Review Activity 1

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用（携帯内臓辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。
- 授業で扱った題材に関して、英字新聞や英語のニュースを活用し、自主的に調べることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：A World of Ideas（南雲堂）ISBN: 9784523177180

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとめた文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点（30％）発表（30％）小レポート（40％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行ふ。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- ・三分の二以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学習として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 1. イントロダクション
- 2. Unit 1 My Club Activities
- 3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
- 4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
- 5. Unit 4 My Part-time Job
- 6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
- 7. アウトライン発表会
- 8. スピーチ・コンテスト予行演習
- 9. スピーチ・コンテスト
- 10. スピーチ・コンテスト
- 11. スピーチ・コンテスト
- 12. スピーチ・コンテスト
- 13. スピーチ・コンテスト
- 14. スピーチ・コンテスト
- 15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50％、スピーチ 50％で評価する。総合評価で 60％以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Bruce Allen: Imagining Tomorrow (Seibido) 830.7/A-39/1

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

ものごとについて考えることを促す英文に触れ、英語での思考がどのようなものか考え、英文理解についてもレベルアップを目指す授業である。

2. キーワード

異文化理解、エッセイ、批判的思考

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. 導入。What makes people unhappy のブリーフィング
2. What makes people unhappy の英語表現確認
3. Fatigue のブリーフィング
4. Fatigue の英語表現確認
5. Envy のブリーフィング
6. Envy の英語表現確認
7. テスト
8. Affection のブリーフィング
9. Affection の英語表現確認
10. Effort and Resignation のブリーフィング
11. Effort and Resignation の英語表現確認
12. The Happy Man のブリーフィング
13. The Happy Man の英語表現確認
Chosen Passages のブリーフィング
14. Chosen Passages の英語表現確認
15. テスト
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：対訳ラッセル 1（南雲堂）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

バートランド・ラッセル『幸福論』133.5/R-11

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）（総合教育棟 3 階：S313）

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化の諸問題について、英語で読み、聞き、話し、書く練習をなるべく多く行い、実践力を身につけることを目指す。

2. キーワード

ディスカッション、時事問題、批判的思考

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction (American Supremacy)
2. Anorexia
3. Art as a Joke
4. Bad Sport
5. Beauty
6. Detension
7. Review Test 1
8. Driven Mad
9. Drug Control
10. Fashion Statement
11. Fighting AIDS
12. Food Safety
13. Global Control
14. Hidden Politicians
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書: Ideas and Issues: Advanced (Macmillan) 830/H-14/1
参考書: 新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)

Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00) (総合教育棟 3 階: S313)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース): 全学科

学年: 2 年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際的な雑誌の記事を読むことで、英文の読解能力の向上を目指す。また、今日の国際社会で取り上げられている多種多様な社会問題を扱うことで、それらの諸問題に対する自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、読解力、情報発信

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Japanese Language Goes International
3. The Japanese Language Goes International (2)
4. A Radical in the White House
5. A Radical in the White House (2)
6. Where do the Japanese Stand Today?
7. Where do the Japanese Stand Today? (2)
8. Review Activity 1
9. Sick with Worry
10. Sick with Worry (2)
11. A New Kind of Challenge
12. A New Kind of Challenge (2)
13. Towards a Brave New World
14. Towards a Brave New World (2)
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、小テストを含む)と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用(携帯内臓辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- 毎回辞書を持参すること。
- 十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

教科書: Setting the Stage (研究社) ISBN: 4327421677

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(詳細はオリエンテーションで伝える。)

総合英語 C I (アドバンスト) Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

現代文化の諸問題について、英文読解の際に適切に、早く理解することを目標とする。また、英語を用いたディスカッション、ライティングを通して主体的に自らの考えを発信する力を身に着けることを目指す。

2. キーワード

時事問題、読解力、ディスカッション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Orientation
2. American Supremacy
3. Art as a Joke
4. Detention
5. The Coffee Shop Situation
6. Church Doctorine Barrier to Pacific Fight against AIDS
7. Review test
8. Food Labelling too much to swallow
9. Lost Language
10. Global Control
11. Hidden Politicians
12. Homeboys
13. Driven Mad
14. Beauty
15. Review Test 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加(課題、発表、レポート、小テストを含む) 60%、学期テスト 40%で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用(携帯内蔵辞書も使用不可)、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回英英辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Advenced (Macmillan) 830/H-14/1
参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に) 833/H-6

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(詳細はオリエンテーションで伝える。)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

学生の専門と関わりを持つ、最新科学のトピックを扱う。「自然科学」、「人間科学と環境」、「21 世紀の革新」、「機械の科学技術」と多岐にわたる科学分野を正確に読み取る能力を養う。科学技術用語の習得及び、リスニング能力も培う。学生が将来、科学技術系の論文を英語で読む際に役立つことを視野に入れる。

2. キーワード

科学技術、自然科学、人間科学、環境、リーディング、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 2 Ocean Awash in Toxic Plastic
3. Chapter 4 Slingshot: Water Purification Innovation
4. Chapter 5 Engineering Earth is Possible
5. Chapter 8 Gigantic Oil Spills and Clean-ups
6. Chapter 10 Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
7. Chapter 12 Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
8. Chapter 16 Electric Cars
9. Chapter 17 Preparing for the Trip to Mars
10. Chapter 19 Controlling Gadgets with Your Own Thoughts
11. Chapter 3 Global-warming Super Typhoons
12. Chapter 6 Making Stem Cell Therapy into Reality
13. Chapter 11 A Bright Future for LED Lights
14. Chapter 18 3D TV Gadgets
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、充分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue 最新の科学を眺める(成美堂)
ISBN：978-4-7919-1283-4
参考書：リーダース英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

このクラスではこれまでに学んだコミュニケーション力を基に、学習者にとって覚えにくく、間違えやすい英語表現を比較することにより、英語力を確実なものとし、更なる応用力を培うことを目標とする。さらに日常生活に関わる英語表現を身につけ、多種多様な英語に慣れることを目指す。

2. キーワード

日英比較 文化的基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Live / Alive
3. Big / Large
4. Tall / High
5. All / Every
6. Many / Much
7. A Few / Few
8. Some / Eny
9. Books / Coffee
10. On / Off
11. In / At
12. By / Untill
13. Between / Among
14. Be / Do
15. 試験
16. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Learn by Comparing (Aahi Press) 835/K-17

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「留学」「若いアスリート」「チョコレート・ストーリー」「音楽」など日常的话题をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的话题、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Exact Time
3. Going Abroad
4. Movie Makers
5. Young Athletes
6. The Amazing Human Body
7. Leisure Time
8. A World of Music
9. Career Pathes
10. The Story of Chocolate
11. The Secrets of Advertising
12. Food and the Environment
13. Living for the Future
14. 多読に挑戦！
15. 期末試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

ACTIVE Skills for Reading 2 (Anderson, N.J.著、Heinle CENGAGE Learning) ISBN: 9781133308034

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CD を活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Recruitment Rethink
3. Unit 2 Less Is More
4. Unit 4 Unfolding Opportunities
5. Unit 5 Proactive Protection
6. Unit 6 Inner Vision
7. Unit 7 Noteworthy Trend
8. Unit 8 Catching Consumers
9. Unit 9 Toward Alternatives
10. Unit 10 Her True Colors
11. Unit 11 Clean Cut Vegetables
12. Unit 12 Dining and Signing
13. Unit 13 High-Tech Helpers
14. Unit 14 Snow Bound
15. Unit 15 Fresh-faced Men

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 7 (金星堂) ISBN: 9784764739536

8. オフィスアワー

授業時間前後

(連絡用メールアドレスはオリエンテーションで伝えます)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

複数の英字新聞から抜粋したやや長めの記事を題材に、今日の英語圏で起きていることを正確に読み取る訓練を行う。「生きた英語」に触れながら、新たな角度から物事をとらえたり、書かれたニュースの背後にある事実を目を向けていくと同時に、提起された問題についての自身の考えを英語で書く練習も行う。

2. キーワード

語彙増強、読解力養成、時事英語

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/The Japanese language goes international
2. The Japanese language goes international
3. Does language “difficulty” speak of a sense beyond mere words?
4. Towards a brave new world
5. A new kind of challenge
6. Memories are made of...history managed and manipulated?
7. Review
8. Where do the Japanese stand today?
9. New horizons beckon as Train Man heads nowhere fast
10. The stage is set for genuine change
11. Sick with worry
12. Climate change: instant expert
13. Great telescope race
14. The art of Saito Makoto
15. The art of Saito Makoto / Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加 (30%)、小テスト (20%)、期末試験 (50%)
総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Setting the Stage (研究社) ISBN: 4327421677

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

現在、インターネットを使って世界中のニュースを視聴することが可能となっている。つまり、研究に関する最新の情報を得るためには、海外のニュースも適宜確認しなければならない。本授業では、AFP 通信のニュースを使い、最先端の科学技術英語を学ぶ。訳読中心ではなく、英文だけで内容や要旨などを捉えられるようになることを目標にする。さらに将来、国際学会で発表ができるようにリスニングを中心とした音声面での強化を図る。毎時間単語テストを行い、語彙力を増やす。さらに、授業では速読ができるようにする。辞書を必ず持参すること。

2. キーワード

メディアイングリッシュ、リーディング、リスニング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction, Unit 1: New Look for Luxury Cars
2. Unit 2: Net Surfing for Robots
3. Unit 3: Flying Solo
4. Unit 5: A NEW Dimension in Printing
5. Unit 6: New York's new Tower
6. Unit 7: 3D Fireworks
7. Unit 8: Africa's First High-Speed Train
8. Unit 9: Gambling on the Dreamliner
9. Unit 10: Wrap around Cinema
10. Unit 11: Robotic Seniors
11. Unit 12: Rerestoring the Ruins
12. Unit 15: Experimenting with Life
13. Unit 16: Space Shuttle's Final Farewell
14. Unit 17: Happy Feet to Start Walking Soon
15. Review, Listening Test
16. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点する）。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・新聞やオンラインなどで、国内外のニュースに目を通しておくこと。
- ・必ず予習をしてから授業に望むこと。

7. 教科書・参考書

教科書：AFP: Science Report (成美堂) ISBN: 9784791912889

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるために色々な場面を想定して、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Meeting people for the first time.
3. Joining the crowd.
4. I have a favor to ask.
5. You're drunk, Koji.
6. Do men touch each other here?
7. Are you married?
8. So, you want to know about guns?
9. He's cute!
10. What's a stepfather?
11. Many Americans sleep naked!
12. Party tips.
13. Do you sing the National Anthem?
14. Revision
15. Revision

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%), Class participation (33%), Final test (33%).

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 教科書・参考書

教科書：Tell me why (Sanshusha) ISBN: 9784384332360

8. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

時事問題や異文化理解に関するエッセイを読みながら、総合的な英語力の向上を目指す。パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高める。また、各ユニットのテーマに関して、学生の皆さんの意見交換を行なう。適宜に各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待する。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Lesson 1: Luxury Fashion vs. Fast Fashion.
3. Lesson 2: What Are Prisons for?
4. Lesson 5: Which Way to Happiness?
5. Lesson 7: E-books.
6. Lesson 8: Abandoned Babies.
7. Lesson 9: Wine and Climate.
8. Lesson 10: Freedom in Cyberspace.
9. Lesson 11: Alternative Food Sources.
10. Lesson 14: What Is Green Business?
11. Lesson 16: Eco-friendly Cars.
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ロミオとジュリエット』一名場面より
13. 『ロミオとジュリエット』のDVD観賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的な参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書：AFP World News Report (2012 年度版／成美堂)
ISBN: 978-4-7919-5085-0

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

英語の理解を深めるために、今なお重要なのが読解である。小説、エッセイ、他言語から翻訳された英語の文章など、さまざまな文章を読むことで、根本的な英語理解を深める。また、英語理解力の向上とともに、世界で起きていることを知り、世界の人々の多様な視点に触れ、異文化理解を深めてもらいたい。さらに、毎回担当を割り当て、それについてプレゼンテーションを行ってもらうが、その過程で、各参加者は、学生や教員との意見交換を通して自らの視点を相対化し、コミュニケーションの本質を理解することが期待される。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. I AM from a Family of Artists (Kurt Vonnegut)
3. Backstroke (Yoko Ogawa)
4. Lost Worlds (Rachel Carson)
5. Why Japan Succeeded (Jared Diamond)
6. Virtual Violence (Ian Buruma)
7. The Other America (Michael Harrington)
8. The Lost Voice of Protest (Bob Herbert)
9. Akeelah and the Bee (Doug Atchison)
10. The Stroke of Teapots (Cynthia Ozick)
11. Unstrange Minds (Roy Richard Grinker)
12. The Private Memoirs and Confessions of a Justified Sinner (James Hogg)
13. A Society (Virginia Woolf)
14. I Don't Know Why (Sherwood Anderson) (予定)
15. テストの解説

5. 評価の方法・基準

平常点 20%、プレゼンテーション 20%、期末試験 60%を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

『Wish』(佐久間みかよ編注、研究社) ISBN: 978-4-327-42174-8

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール：citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role.
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse) 830/V-3/2

8. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Food - Conjecture
2. City Life - Skepticism
3. Culture - Comparison / contrast
4. Environment - Validity
5. Work - Explanation
6. Health - Criticism
7. Review / Exam
8. Family - Comparison / Contrast
9. Money - Explanation
10. Gender Issues - Inference
11. Personal Issues - Validity
12. Space - Criticism
13. World Issues - Skepticism
14. Review / Exam

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 – 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 – 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科・総合システム工学科
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとめた文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
第2回 Explanation (1)
第3回 Explanation (2)
第4回 Explanation (3)
第5回 Essay (1)
第6回 Essay (2)
第7回 Essay (3)
第8回 Critiques (1)
第9回 Critiques (2)
第10回 Critiques (3)
第11回 Projects (1)
第12回 Projects (2)
第13回 Presentation
第14回 Presentation
第15回 Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

8. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
3. Unit 11 How can We Prevent Suicides?
4. Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
5. Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
6. Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C II (アドバンスト) Comprehensive English C II

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す、特にディスカッションやスピーチを重視する。この授業を通じ、英語の発信能力を養って欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イン트로ダクション
2. Male Crisis
3. Moonstruck
4. My Internet hell
5. National stereotypes
6. Racist superheroes
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・アウトライン発表会
9. スピーチ・アウトライン書き直し
10. スピーチ・予行演習
11. スピーチ・書き直し
12. スピーチ・コンテスト (1)
13. スピーチ・コンテスト (2)
14. スピーチ・コンテスト (3)
15. スピーチ・コンテスト (4)

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書: Ideas & Issues (Advanced) 830/H-14/1

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室: 共通教育棟 S408)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース): 全学科(人間科学科目)

学年: 2 年次 学期: 後期 単位区分: 必修 単位数: 1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Nuclear Rescue Robots
3. Dr. Henry's Dilemma
4. Human Experimentation
5. Professional Experimentation
6. Chasing a Dream
7. Made with Japan
8. Eco Japan
9. Specialist or Politician
10. To Err is Human
11. No water? Technology to the Rescue
12. The Dedication of an Oyster Fisherman Saves a Forest
13. Foundation of Science Crumbling
14. The Kanemi Yusho Incident
15. Tokyo Skytree

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書 Explore (Sanshusha) ISBN: 9784384334289

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II (アドバンスト) Comprehensive English C II (Advanced)

対象学科(コース)：全学科(人間科学科目)
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking (批判的思考) 能力を伸ばす。

2. キーワード

異文化理解、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Making Money
3. Male Crisis
4. Marriage
5. Moonstruck
6. My Internet Hell
7. National Stereotypes
8. News Blackout
9. Predicting the Future
10. Racist Superheroes
11. Single Parents
12. Small Planet
13. Test-tube Babies
14. Transplants
15. Violent Youth

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験…20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等…60%
- (3) Presentation…20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas & Issues (Advanced) 830/H-14/1

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目 (総合教育棟 4 階 414)
上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース)：全学科
学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解(構造理解、語彙、文化的な背景)とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Story 1
3. Story 2
4. Story 3
5. Story 4 (1)
6. Story 4 (2)
7. Test 1
8. Story 5 (1)
9. Story 5 (2)
10. Story 6 (1)
11. Story 6 (2)
12. Test 2
13. Discussion 1
14. Discussion 2
15. Discussion 3
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第 11 条 2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：Selected Stories of Edgar Allan Poe (Sansyusha)
ISBN: 9780194720083

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に) 833/K-31/7 (第 7 版)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に
関心がある人に) 833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00) (総合教育棟 3 階: S313)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際的な雑誌の記事を読むことで、英文の読解能力の向上を目指す。また、今日の国際社会で取り上げられている多種多様な社会問題を扱うことで、それらの諸問題に対する自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、読解力、情報発信

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Does Language “Difficulty” Speak of a Sense beyond Mere Words?
3. Does Language “Difficulty” Speak of a Sense beyond Mere Words? (2)
4. Hidden Power
5. Hidden Power (2)
6. Memories Are Made of... History Managed and Manipulated?
7. Memories Are Made of... History Managed and Manipulated? (2)
8. Review activity 1
9. New Horizons Beckon as Train Man Heads Nowhere Fast
10. New Horizons Beckon as Train Man Heads Nowhere Fast (2)
11. Great Telescope Race
12. Great Telescope Race (2)
13. Thirty Years on, Have No Lessons Been Learned from Vietnam?
14. Thirty Years on, Have No Lessons Been Learned from Vietnam? (2)
15. Review Activity 2

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（課題、発表、小テストを含む）と学期テストを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

教科書：Setting the Stage（研究社）ISBN: 978432742167-0

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

アメリカのホームドラマを通して、構文理解に役立つ文法事項の習得、日常的な語彙及び実用的英語表現の習得を目指す。この 2 つの習得を通じて、英文読解力を養成する。さらに、「生の英語」を聞くことで、英語のリズム、発音、イントネーションに慣れ、リスニング力を向上させる。アメリカの文化、国民性を見直すきっかけにする。

2. キーワード

リーディング、リスニング、カルチュラル・リテラシー、文法理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Unit 1 Tabitha's Very Own Samantha (1)
3. Unit 2 Tabitha's Very Own Samantha (2)
4. Unit 3 Tabitha's Very Own Samantha (3)
5. Unit 4 Tabitha's Very Own Samantha (4)
6. Unit 5 Tabitha's Very Own Samantha (5)
7. Unit 6 Samantha's Secret is Discovered (1)
8. Unit 7 Samantha's Secret is Discovered (2)
9. Unit 8 Samantha's Secret is Discovered (3)
10. Unit 9 Samantha's Secret is Discovered (4)
11. Unit 10 Samantha's Secret is Discovered (5)
12. Unit 11 The Phrase is Familiar (1)
13. Unit 12 & 13 The Phrase is Familiar (2)
14. Unit 14 & 15 The Phrase is Familiar (3)
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・授業をきっかけに、アメリカのテレビ・ドラマ、映画を視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Welcome to the Fantastic English World of *Bewitched!!*『奥さまは魔女』のファンタスティック・イングリッシュ・ワールド（開文社）ISBN: 978-4-87571-157-5

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。Longman Dictionary of English Language and Culture（文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き）ISBN: 0582086760

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

前期に引き続き、日本語表現と英語表現を比較することにより、更なる実用的な英語の使い方を習得することを目標とする。同時に文法的基礎知識の確立や日常生活に役立つ英語表現をととして異文化理解も深める。

2. キーワード

日英比較、文化的基礎知識、読解力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

01. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）

02. Come / Go

03. Study / Learn

04. Hear / Listen

05. Say / Tell

06. Let / Make

07. Wake up / Get up

08. Will / Be going to

09. Must / Have

10. Had better / Should

11. Shall I ...? / Will you ...?

12. Would / Used to

13. Hard / Hardly

14. Very / Much

15. 期末試験

16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Learn by Comparing (Asahi Press) 835/K-17

8. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現でできるようになることを目標とする。内容については、学生の興味に対応するため、特に「人と自然」に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション

2. A real winner (1)

3. A real winner (2)

4. Zoo dentists (1)

5. Zoo dentists (2)

6. Solar cooking (1)

7. Solar cooking (2)

8. Bird girl (1)

8. Bird girl (2)

10. Beagle patrol (1)

11. Beagle patrol (2)

12. Polar bears in trouble (1)

13. Polar bears in trouble (2)

14. 多読に挑戦

15. 定期試験

5. 評価の方法・基準

(1) 学期試験－60%

(2) 授業での小テスト－20%

(3) 授業での発表や提出物－20%

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

教科書：Snapshots from the Globe, HEINLE.

ISBN: 9781133317722

その他、適宜プリントを配布する。

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業は CBS News を通してアメリカで今起きていること見聞し、リスニング力を高め、コミュニケーションの第一歩である情報を受容する力を養うことが第一目標とする。そして、その情報を各人が解釈することで、自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことがさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 1 Addicted to Your Smart Phones?
3. 2 Tutoring for Tods
4. 3 Corporate Wellness Programs Gaining Popularity
5. 4 Are Kids Hurt When Moms Work?
6. 5 New Graphic Warnings for Cigarette Smokers
7. 6 Silicon Valley School: No computers in Classroom
8. 7 Buzz Words: "Skinny" the Latest to Catch on
9. 8 Learning Small Talk
10. 9 Happy Meal Target Kids
11. 10 Internships - Are They Worth it?
12. 11 Happiness 101
13. 12 Therapy Dogs Help the Sick
14. 13 Ford Going Green with U.S.-Grown Crops
15. 14 Haiku Poetry Helps NYC Pedestrians Stay Safe

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 教科書・参考書

教科書：CBS NewsBreak（成美堂）ISBN: 9784791912872

8. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレスはオリエンテーションの時に伝えます）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

情報伝達の手段であるとともに人間関係を円滑にする役割を持つ言葉について、「会話のしくみ」を理解しつつ、誤解や不信感を生じないために、相手を思いやりながら真意を伝える方法についてのエッセイを読むことにより、読解力を高めるだけでなく、言葉、コミュニケーションへの関心を高める。

2. キーワード

語彙増強、多読、コミュニケーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction / The Problem is the Process
2. The Problem is the Process
3. The Problem is the Process
4. The Problem is the Process
5. The Working of Conversational Style
6. The Working of Conversational Style
7. The Working of Conversational Style
8. The Working of Conversational Style
9. The Working of Conversational Style
10. Conversational Signals and Devices
11. Conversational Signals and Devices
12. Conversational Signals and Devices
13. Conversational Signals and Devices
14. Why We don't Say What We Mean
15. Why We don't Say What We Mean

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：That's not What I meant（金星堂）

ISBN: 9784764704862

8. オフィスアワー

質問等は基本的には授業時間前後に受け付けるが、メールでも対応します。mayumik@viola.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

将来、専門の分野に進んだ際、研究に関連した論文、またインターネットで関連する分野の雑誌記事を探すことが必要になってくる。日本語で全て行えるに越したことはないが、最新の論文などはどうしても英語で読む必要が出てくる。そういった現状を踏まえて、授業ではリーディングを重点的に行い、必要となる情報を英語で確実に見つけ出していく練習をする。ニュース英語を用いて、多少長めの文章でも逐語訳をせず理解できるようにする。扱うユニットは社会問題からビジネスまで幅広いため、専門分野以外の知識を増やしてほしい。毎時間単語テストを行い、語彙の定着を図る。また、速読ができるようになることを目標とする。

2. キーワード

科学英語、リスニング、リーディング、速読

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction, Unit 1: Rogge concerned about Olympic nationality switches
2. Unit 2: Vogue bans too-thin, underage fashion models as unhealthy
3. Unit 4: Top court stresses nature of crime over offender's age
4. Unit 5: Reckless cyclists face crackdown
5. Unit 6: Crested ibids chick in wild leaves nest for first time
6. Unit 7: Rare eclipse delivers spectacle despite cloudy weather perfect glowing ring thrills millions nationwide
7. Unit 8: Japan marks one year since quake, tsunami disaster
8. Unit 9: Low incomes drive surge in number of never-marrieds
9. Unit 10: Organ transplant from child's 'a bright ray of hope'
10. Unit 12: Zuckerberg's post-IPO wedding is smart legal move
11. Unit 13: Steve Jobs, Apple co-founder, dies at 56
12. Unit 16: U.S. Air Force civilian worker given 18 months over fatal car crash
13. Unit 17: Tuesday's havoc laid to rare 'May Storm'
14. Unit 20: Titanic centennial an epic event
15. Review, Listening Test
16. Exam

5. 評価の方法・基準

原則として、定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で 60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁（減点する）。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・新聞やオンラインなどで、国内外のニュースに目を通しておくこと。
- ・必ず予習をしてから授業に望むこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Fly High through News in English（三修社）ISBN: 9784384334302

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)（南雲堂）830/O-10

8. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

日本の企業を代表する創業者のエピソードを取り上げ、各ジャンル特有の語彙をはじめ総合的な英語力の向上を目指す。精読から単語、熟語、文法事項の再確認をする。また、パラグラフ・リーディングと共に多読による速読のスキルを身に付ける。プレゼンテーションをする機会を設けることで、分かりやすいハンドアウトの作り方や発表の仕方を学ぶ。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 1: Soichiro Honda – 本田技研工業（株）
3. Unit 1: Soichiro Honda
4. Unit 2: Masao Ogura – ヤマトホールディングス（株）
5. Unit 2: Masao Ogura
6. Unit 5: Momofuku Ando – 日清食品ホールディングス（株）
7. Unit 5: Momofuku Ando
8. Unit 6: Konosuke Matsushita – パナソニック株式会社
9. Unit 6: Konosuke Matsushita
10. Unit 8: Akio Morita – ソニー株式会社
11. Unit 8: Akio Morita
12. 英文学訪問：
シェイクスピア『ヴェニスの商人』一名場面より
13. 『ヴェニスの商人』の DVD 観賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回、辞書を持参すること。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求める。

7. 教科書・参考書

教科書: Great Japanese Entrepreneurs (2013 年度版 / 金星堂)
ISBN: 9784764739604

8. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後に。

メールアドレス: scotty@jeans.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 斎藤 彩世

1. 概要

英語は世界中で使用される言語となり、もはやイギリスだけが英語と結びつく世の中ではなくなったが、言語と文化は切り離せないものであるため、あえてイギリス文化について英語で学習したい。特に民謡を取り上げるが、民謡とは、その時代に生きる誰もが知っているものであるため、時代の思想や風俗などが色濃く反映されている。その民謡について分析した長めの英文の読解を中心に、英語理解と異文化理解を深めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解、リーディング、ライティング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The Weaver and the Factory Maid: Industrialization
3. Susie Cleland: Mixed Marriage
4. Jack Hall: The Death Penalty
5. John Barleycorn: Going up the Pub
6. Fighting for Strangers: A Military Career
7. Parcel of Rogues: Not just England
8. The Cruel Brother: Cultural Differences
9. John Peel: Hunting, Fishing and Poaching
10. Down in Yon Forest: The Search for Meaning
11. The Plains of Waterloo: Attitudes to the French
12. Hard Times of Old England: The World of Work
13. Hopping down in Kent: Modern Farming
14. The Cruel Mother: Motherhood
15. テストの解説

5. 評価の方法・基準

平常点 20%、プレゼンテーション及びライティングペーパー 20%、期末試験 60%を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習と積極的な授業への参加を求める。

7. 教科書・参考書

『フォークソングの視点から見た現代イギリス』(Simon Rosati, 英宝社) ISBN: 9784269150324

8. オフィスアワー

授業時間終了後

メール: citizen_of_somewhere_else@yahoo.co.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Prepare adequately for classes based on direction by the teacher.

7. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan LanguageHouse) 830/V-3/2

8. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 – 4 : 00

Tuesday : 10 : 00 – 5 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points: a) prepare thoroughly for class b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う。
(工学部学修細則第11条2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版) ISBN: 9780582403987

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
- Week 2 Explaining Japanese Music
- Week 3 Explaining Japanese Food
- Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
- Week 5 Explaining Japanese Holidays
- Week 6 Explaining Japanese Games
- Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
- Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
- Week 9 Explaining Famous Japanese People
- Week 10 Explaining Japanese Superstitions
- Week 11 Explaining Japanese Animations
- Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
- Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
- Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
- Week 15 Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90% , Tests 10%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00
Tuesday : 12:00-4:00

中級英語Ⅰ Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、スピーチの実践を中心に、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Chapter 1 Herbivorous Males
3. Chapter 2 Galapagized Japan
4. Chapter 3 Uniformity
5. Chapter 4 Universities in Japan
6. Chapter 5 English as a Lingua Franca
7. Chapter 6 Disaster Spirit
8. Chapter 7 Immigrants Needed
9. Chapter 8 Manga
10. Chapter 9 Lack of Entrepreneurs
11. アウトライン発表会
12. スピーチ・コンテスト予行演習
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Good-bye, Galapagos: Evolving Aspects of Japanese Society (センゲージ・ラーニング) ISBN: 9784863122161

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。
(研究室：共通教育棟 S408)

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts and the internet. Students will learn discussion techniques and how to present using powerpoint slide presentations. They will prepare for exchange programmes such as Surrey University, ODU and the Space University.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs, internet

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport 11. A star is born... or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments. Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
 - b) do writing exercises on your own
- 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等3分の2の出席数がないと履修資格を失う。
(工学部学修細則第 11 条 2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.
Research topics using the internet.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - intermediate (Pearson Longman 出版) ISBN: 9780582403987

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality/quantity/size/shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Pumps	Ishikawa Diagrams
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect.resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Thermodynamics Laws
11	High Definition	TV Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Review	Review	Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering Robert Long. Lulu Press. 507.7/L-3

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00

Tuesday : 10:00-5:00

上級英語AⅠ Advanced English AⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：(1)・2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Crazy Fashions the Norm Paired Interviews
2. Marriage Under the Microscope Consultations
3. Wireless Japan Debates
4. My Grandfather's Binbogami Group Work
5. Review Review
6. E-Commerce Surveying
7. Rap and Hip-Hop Music Paired Interviews
8. Review Review
9. Children: A Different Breed Consultations
10. Competitive Sports Debates
11. Women Managers Group Work
12. Social Activists Surveying
13. Review
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN: 1-4116-28039

8. オフィスアワー

Monday : 10:00 - 5:00

Tuesday : 10:00 - 5:00

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
学年：（1）・2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択
単位数：1 単位
担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students better express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. More emphasis is on longer and more developed ideas. Fluency is improved with students having well-developed paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning cultural themes from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネーティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1.	Family	Focus on questions and answers
2.	Beauty	Focus on assertions and disclaimers
3.	Education	Focus on comments and reflections
4.	Expertise	Focus on comparisons and suggestions
5.	Individualism	Focus on observations and criticisms
6.	Entertainment	Focus on preferences and recommendations
7.	Review and exam	
8.	Exam	
9.	Oligation	Focus on explanations and excuses
10.	Sports	Focus on comparison and complaint
11.	Power	Focus on claims and conjunctures
12.	Dependence	Focus on descriptions and testimonies
13.	Discipline	Focus choices and judgments
13.	Internet Forum	Practice: All speech acts
14.	Review	
15.	Exam	

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 80% Exams 20% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Culture Compass, by Robert Long. Lulu Press. ISBN: 978-1-4116-4484-7

8. オフィスアワー

Monday : 1 : 00 – 4 : 00
Tuesday : 1 : 00 – 4 : 00

上級英語 B I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科
学年：（1）・2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択
単位数：1 単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の3点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 英文読解
- 第3回 議論・発表
- 第4回 英文読解
- 第5回 議論・発表
- 第6回 英文読解
- 第7回 議論・発表
- 第8回 英文読解
- 第9回 議論・発表
- 第10回 英文読解
- 第11回 議論・発表
- 第12回 英文読解
- 第13回 議論・発表
- 第14回 英文読解
- 第15回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70%） 期末課題（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

辞書を持参すること。
授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価の方法・基準

- (1) 学科試験…20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等…60%
- (3) Presentation…20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：(1)・2・3・4年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

グローバル化の進む現代において、いかなる分野の専門家を目指そうとも国際社会の変化と無縁ではいられない。時流を見極めるには、十分な情報と判断力が必要である。本授業では、英文ニュース記事等を題材に、国際・国内問題の理解、情報収集と議論、意見の発表の 3 点を行う。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

- 第 1 回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第 2 回 英文読解
- 第 3 回 議論・発表
- 第 4 回 英文読解
- 第 5 回 議論・発表
- 第 6 回 英文読解
- 第 7 回 議論・発表
- 第 8 回 英文読解
- 第 9 回 議論・発表
- 第 10 回 英文読解
- 第 11 回 議論・発表
- 第 12 回 英文読解
- 第 13 回 議論・発表
- 第 14 回 英文読解
- 第 15 回 議論・発表

5. 評価の方法・基準

平常点（70％） 期末課題（30％）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 B II Advanced English II

対象学科（コース）：全学科

学年：2・3・4 年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：1 単位

担当教員名 前田 雅子

1. 概要

国際社会において、英語でコミュニケーションをするうえで重要なのは、いかに自分から情報を発信できるかである。本講義では、「日本文化」「社会問題」「環境問題」などの、身の回りの題材に関して自分なりの考えを持ち、それを英語で明確に伝える能力を育むことを目標とする。

2. キーワード

情報発信、運用能力、国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 英文読解・英語聴解
3. 英文読解・英語聴解
4. 英文読解・英語聴解
5. 議論・発表
6. 議論・発表
7. 議論・発表
8. 議論・発表
9. 英文読解・英語聴解
10. 英文読解・英語聴解
11. 英文読解・英語聴解
12. 議論・発表
13. 議論・発表
14. 議論・発表
15. 議論・発表

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（プレゼンテーション）とレポートを総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席がないと、履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用（携帯内蔵辞書も使用不可）、居眠り等は減点対象とする。
- ・毎回英英辞書を持参すること。
- ・十分な授業準備と積極的な授業参加を前提とする。

7. 教科書・参考書

プリントを配布する。

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（詳細はオリエンテーションで伝える。）

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' efforts in class will be evaluated by weekly assignments and presentations. Extra credit can be earned through writing presentations related to new technology in the students' own field of study. The presentations will focus on explaining the technology and then its potential impact on society, as well as effectively answering questions from the audience.

2. キーワード

Communication, debate, critical thinking

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. How do you make a good first impression
2. What makes food taste good?
3. What does it take to be successful?
4. Discussion and fluency review
5. How has technology affected your life?
6. Why do people help each other?
7. Does advertising help or harm us?
8. Discussion and fluency review
9. Why do people take risks
10. How can we make cities better places to live?
11. How can a small amount of money make a big difference?
12. Do people communicate better now than in the past?
13. Discussion and fluency review
14. Exam

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Q: Skills for Success: Reading and Writing (Oxford)
ISBN: 9780194756228

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00
Tuesday : 10:00-5:00
long@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：3・4 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Peace around the World
3. Click Here!
4. What's in the News?
5. Heroes and Villains
6. Review Test 1
7. Family Matters
8. Let's Change the Subject!
9. Adventures in Science
10. Extend Reading 2
11. The Company We Keep
12. Stressed Out!
13. Shock Tactics
14. Extend Reading 3
15. Review Test 2
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Quick Smart English Advanced (Macmillan) ISBN: 9784777363032

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

8. オフィスアワー

火曜日 4 限（14：30～16：00）
（総合教育棟 3 階：S313）

技術英語 I Technical English I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct.	Analysis Elect. Resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams Elect.	Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews/Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews/Presentations				
13. Reviews/Presentations				
14. Reviews/Presentations				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press ISBN: 9784939130939

8. オフィスアワー

Monday: 1:00 - 4:00
Tuesday: 10:00 - 5:00
long@dhs.kyutech.ac.jp

技術英語Ⅱ Technical English II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and writing assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける。
- ・発信能力の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage	Transmission
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Perceptia Press 507.7/L-2/2

8. オフィスアワー

Monday : 1:00-4:00

Tuesday : 10:00-5:00

外国系科目（初修外国語）

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達的手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることに寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。

文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、とすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様な文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知ること、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、3科目（各一単位）が選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

入学時の4月に「基礎ドイツ語AⅠ」又は「基礎中国語AⅠ」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語AⅠ」（1年前期）、「基礎ドイツ語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語AⅠ」（1年前期）、「基礎中国語AⅡ」（1年後期）の2科目が必修となる。

2年次に3科目目を履修する場合、ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。また、中国語を選んだ学生は「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のうち1科目を履修しなければならない。「基礎ドイツ語B」と「基礎中国語B」はクラス指定になっているので、それぞれ指定のクラスで履修する。「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」、「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」はどのクラスを受講することも可能だが、履修希望者が多い場合は履修を制限する場合がある。また、年度によっては開講されない場合もある。

2年次終了時まで「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」または「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」のどの単位も修得できなかった場合は、3年次以降、学生便覧の別表第1「人間科学科目履修課程表 1.(1)人間科学基礎科目」の備考欄に*印が記載されている外国語科目（「基礎ドイツ語B」「ドイツ語A」「ドイツ語BⅠ」「ドイツ語BⅡ」「ドイツ語CⅠ」「ドイツ語CⅡ」「基礎中国語B」「中国語A」「中国語BⅠ」「中国語BⅡ」「ロシア語Ⅰ」「ロシア語Ⅱ」「韓国（朝鮮）語Ⅰ」「韓国（朝鮮）語Ⅱ」）のうちからどの科目を履修してもよい。

中国語の履修を希望する学生は、第1回目の「基礎中国語AⅠ」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語AⅡ」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

柴田隆ほか「ヴィッテンベルクでドイツ語・文法」（同公社）
ISBN: 9784810208757

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について

世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。（VTR と写真使用）

第2回 あいさつ

第3回 発音・アルファベット

第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）

第5回 趣味と仕事（不規則動詞）

第6回 お買い物1（名詞の性と格変化、複数形）

第7回 お買い物2（形容詞）

第8回 中間まとめ

第9回 食生活（命令形）

第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）

第11回 つづき

第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。（話法の助動詞）

第13回 つづき

第14回 自分の一日（分離動詞）

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業で教室で販売します。2,520円です。

参考書 色々な問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化（1）

／たずね方／2 人称のSieとdu発音 Stufe 2

{2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位
／否定の語nicht

{3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／
名詞の複数形／否定冠詞kein

{4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞

* 上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕山本 淳「じゃあ、またあした！」コンパクト版（同学社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置づけ

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回～第2回 つづり字の読み方と発音 挨拶をする

第3回～第4回 動詞の人称変化、文の作り方 知り合いになる

第5回～第6回 文法上の性と格 食べ物の注文をする

第7回～第8回 冠詞類 買い物の相談をする

第9回～第10回 不規則変化動詞、命令形 食事の相談をする

第11回～第12回 前置詞の格支配 どこに行くか尋ねる

第13回～第14回 複数形 市場で果物などをかう

第15回 前期のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含みドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕新倉・亀ヶ谷：ゲナウ！グラマティック（第三書房）

ISBN: 9784808610463

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を ABC から学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語文法 異文化 国際理解

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
- 第2回 あいさつ
- 第3回 発音・アルファベット
- 第4回 自己紹介（動詞の現在人称変化）
- 第5回 趣味と仕事（不規則動詞）
- 第6回 お買い物 1（名詞の性と格変化、複数形）
- 第7回 お買い物 2（形容詞）
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活（命令形）
- 第10回 私の家族（所有冠詞、人称代名詞）
- 第11回 つづき
- 第12回 旅行 ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。（語法の助動詞）
- 第13回 つづき
- 第14回 自分の一日（分離動詞）
- 第15回 ドイツの映画
映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。（家、衣服、食事、家庭他）
- 第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書は1 回目の授業で教室で販売します。2,520 円です。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

話法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN:9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅠ Basic German AⅠ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

前期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

発音

動詞の現在（1 規則動詞）・定動詞の位置

名詞と定冠詞

動詞の現在（2 sein/haben）

動詞の現在（3 不規則動詞）・命令法

不定冠詞と冠詞類

名詞の複数形・男性弱変化名詞

人称代名詞・疑問詞

前置詞

接続詞・分離動詞

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

語法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN: 9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

語法の助動詞、未来形

動詞の 3 基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

西本美彦「文法システム 15 ― 新改訂版」（同学社）

ISBN: 9784810208627

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

話法の助動詞、未来形

動詞の3基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

柴田隆ほか「ヴィッテンベルクでドイツ語・文法」（同公社）
ISBN: 9784810208757

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

（1）導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

（2）定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- （3）展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

{5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化

{6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化

{7} 話法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）

{8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞

{9} 現在完了／話法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞

* 上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験50%、演習50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕山本 淳「じゃあ、またあした！」コンパクト版（同学社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の 3 基本形・過去
現在完了・過去完了
話法の助動詞・未来
形容詞の格変化・名詞化
zu 不定詞・man
比較
再帰動詞・非人称動詞
受動・分詞
関係詞・指示代名詞
接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

第1回～第2回 形容詞の格変化、人称代名詞 空腹などを訴える
第3回～第4回 話法の助動詞、未来形 外出に誘う
第5回～第6回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞 駅で列車の出発時刻などを尋ねる
第7回～第8回 ZU不定詞 相談にのってくれるように頼む
比較表現 物事を比べる
第9回～第10回 三基本形、過去人称変化、接続詞 ぶつぶつ文句を言う
第11回～第12回 現在完了形、過去完了形 何をしたかを尋ねる
第13回～第14回 受動形 招待される 関係文 休暇の計画を立てる
第15回 後期のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。期末試験 50%、演習 50%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いされるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕新倉・亀ヶ谷：ゲナウ！グラマティック（第三書房）

ISBN: 9784808610463

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上で大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記（2）、（3）の内容を学習する。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：前期と同じものを使用する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー、E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一〜二時間ずつかけて学習する：

動詞の3基本形・過去

現在完了・過去完了

語法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

話法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN: 9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

後期は下記の項目を一～二時間ずつかけて学習する：

動詞の 3 基本形・過去

現在完了・過去完了

話法の助動詞・未来

形容詞の格変化・名詞化

zu 不定詞・man

比較

再帰動詞・非人称動詞

受動・分詞

関係詞・指示代名詞

接続法

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

春日正男・松澤淳「怖くはないぞドイツ文法」朝日出版社

ISBN: 9784255253237

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

アルファベット・発音

動詞の現在人称変化（1）

名詞と冠詞の格変化

名詞の複数形・人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）・命令法

定冠詞類・不定冠詞類

前置詞

語法の助動詞・未来形・非人称動詞

分離動詞と非分離動詞・接続詞

動詞の三基本形・過去人称変化

現在完了・再帰表現

形容詞の格変化

形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞

関係代名詞・指示代名詞

受動態

接続法

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

前田良三他：身につくドイツ文法＜Leicht＞（郁文堂）

ISBN: 9784261011869, ISBN: 9784261012316（Ver.2）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（後期第 1 回～15 回）。

発音、挨拶表現

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞の性と格

複数形

冠詞類、人称代名詞

動詞の現在人称変化（2）、命令形

前置詞、従属の接続詞

複合動詞、再帰、非人称の主語 es

語法の助動詞、未来形

動詞の 3 基本形、過去人称変化

完了形

形容詞

指示代名詞、関係代名詞

受動態、zu 不定詞、分詞

接続法

5. 評価の方法・基準

期末試験を行い、授業への参加状況を加味して、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

西本美彦「文法システム 15 ― 新改訂版」（同学社）

ISBN: 9784810208627

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をA B Cから学び、日本以外の国に関心を持って、いろいろなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
- 第7回 お買い物2
roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「ドイツ美術の旅」、荻野蔵平 他、朝日出版、2400 円 ISBN: 9784255253619

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～15 回）。

Ankunft in Berlin
Beim Bäcker
Sprachkurs
In der Mensa
Beim Arzt
Beim Studentenwohnheim
Zum Wannsee
Beim Friseur
In einem Biergarten
In einer Boutique
Philipps Geburtstag
Vor der Abreise

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

清野智昭：ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン]
DVD 付き（朝日出版社）840/S-21

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲーリカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTRと写真使用)
- 第2回 あいさつ
CDを使って、簡単なあいさつを覚え、ペアーで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplayを書く。
- 第7回 お買い物2
roleplayを発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しあう。
- 第11回 お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色々なことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色々な問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「一緒に話そう、ドイツ語」(Ein Geist in Nuernberg ?)、清野智昭 他、同学社、2500 円 ISBN: 9784810207354

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

Ankunft in Berlin
Beim Bäcker
Sprachkurs
In der Mensa
Beim Arzt
Beim Studentenwohnheim
Zum Wannsee
Beim Friseur
In einem Biergarten
In einer Boutique
Philipps Geburtstag
Vor der Abreise

5. 評価の方法・基準

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20％程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

清野智昭：ドイツ語の時間 [ビデオ教材 恋するベルリン]
DVD 付き（朝日出版社）840/S-21

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	話法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 11	過去形
第4回	Lektion 11	現在完了形
第5回	Lektion 11	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「シュトラッセ・ノイ Ver.20」、立教大学編集、朝日出版、2300 円 ISBN: 9784255253510

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その 2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
- ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60％以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を ABC から学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用) |
| 第2回 | あいさつ
CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。 |
| 第3週 | 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用) |
| 第4回 | 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。 |
| 第5回 | 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他) |
| 第6回 | お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。 |
| 第7回 | お買い物2
roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題) |
| 第8回 | 中間まとめ |
| 第9回 | 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。 |
| 第10回 | 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しよう。 |
| 第11回 | お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。 |
| 第12回 | 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。 |

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
 駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布 しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベット・発音
ベルリン大好き
ワールドカップサッカー
ビール 1 杯
ドイツ人とパン
グリム童話
アウトバーン
環境保護
ドイツの人気バンド Tokio Hotel
ドイツの歴史
色で表すドイツの政治
手紙
再生可能エネルギー

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！＜ Ver.3 ＞（郁文堂）
ISBN: 9784261012354

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

第 1 回 Lektion 10 語法の助動詞
第 2 回 Lektion 10 “
第 3 回 Lektion 11 過去形
第 4 回 Lektion 11 現在完了形
第 5 回 Lektion 11 “
第 6 回 Lektion 12 受動態
第 7 回 Lektion 13 比較
第 8 回 Lektion 13 “
第 9 回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
第 11 回 Lektion 14 “ まとめ小テスト
第 11 回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
第 12 回 Lektion 15 “ まとめ小テスト
第 13 回 まとめ演習 まとめ小テスト
第 14 回 まとめ演習 まとめ小テスト
第 15 回 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

「3. 11 福島」(Freitag, 11. März 2011 Fukushima)、石井寿子 他、同学社、1600 円 ISBN: 9784810206951

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリーカ

1. 概要

●授業の背景

英語を話せて当たり前の時代になりました。この授業ではヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を ABC から学び、日本以外の国に関心を持って、いろんなメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じてもらうのが狙いです。

●授業の目的

一年生の時に習ったドイツ語を深めて、ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を理解し、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らし、最終的にドイツ語初級の読み書き、聞き取り、話すことができるようになります。

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習し、ロールプレイをします。ドイツ人の日常生活や文化を紹介します。

2. キーワード

ドイツ語、会話、ロールプレー、異文化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーションドイツとドイツ語について
世界の中のドイツの役目、異文化の勉強の意味について一緒に考える。(VTR と写真使用)
- 第2回 あいさつ
CD を使って、簡単なあいさつを覚え、ペアで練習する。
- 第3週 発音・アルファベット
ドイツ語の発音のルールを学び、ドイツ人やドイツの地名について調べる。
正しい発音を意識する。(地図・雑誌他使用)
- 第4回 自己紹介
自己紹介の様々な表現を通じて、動詞の使い方を学ぶ。
- 第5回 趣味と仕事
自分について話す練習をする。(趣味、勉強、将来の仕事他)
- 第6回 お買い物1
買い物の様々な表現を通じて、名詞の使い方を学ぶ。
冠詞類や複数形を練習する。shopping-roleplay を書く。
- 第7回 お買い物2
roleplay を発表する。ドイツの買い物事情について調べる。(市場、専門店、セール、環境問題)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 食生活
食事のときの表現を学び、食べ物の名前や食生活について調べる。
- 第10回 私の家族
自分の持ち物や家族についての作文に挑戦し、写真を使って説明しよう。
- 第11回 お願いがあります
困ったときの表現、何かを頼みたいときの表現を練習する。
話し方のマナーや注意点について説明する。
- 第12回 旅行
ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第13回 旅行 2

ドイツ語で旅行の計画を立て、旅行の好みについて話す。
駅、レストラン、ホテルで使う表現を学ぶ。

第14回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)

第15回 ドイツの映画

映画を通じて、聞き取り力を確認し、ビジュアルに今のドイツの色んなことに気づく。(家、衣服、食事、家庭他)
つづき

第16回 テスト

5. 評価の方法・基準

期末試験 50% 小テスト 20% 授業態度 30%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回ドイツへ行った気分で、恥ずかしがらずに会話や歌、ロールプレイ etc. に挑戦しましょう。

7. 教科書・参考書

教科書は1回目の授業のとき教室で販売いたします。

参考書 色んな問題や文法説明をプリント等で配布しますので、参考書は買う必要はありません。

独和辞典が必要

8. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師室）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語 A I、A II で学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など

・前置詞、形容詞・副詞の用法

・ドイツ語文の大原則その 2——副文

・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態

・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと (2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：第一回目の授業で指示する。

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：総合システム（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベット・発音

ベルリン大好き

ワールドカップサッカー

ビール 1 杯

ドイツ人とパン

グリム童話

アウトバーン

環境保護

ドイツの人気バンド Tokio Hotel

ドイツの歴史

色で表すドイツの政治

手紙

再生可能エネルギー

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！< Ver.3 >（郁文堂）

ISBN: 9784261012354

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語A German A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

ドイツ文法の基礎を習得する。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取り入れながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

未定

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、平常点を加味して60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと。

7. 教科書・参考書

小塩 節「新しいドイツ語1A」朝日出版社 ISBN: 9784255250038

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

ドイツ語B I German B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

1. 到着
2. ホテル探し
3. ホテルにて
4. レストランで
5. 買い物
6. アパート探し
7. バイキング
8. 招待される
9. 医者にて
10. 手紙

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

別途掲示する。

ドイツ語 B II German B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次の基礎ドイツ語 A を踏まえドイツ語の基礎を補完し、次の段階につながるドイツ語の学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する。

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を可能な範囲で 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（第 1 回～ 15 回）。

アルファベット・発音
ベルリン大好き
ワールドカップサッカー
ビール 1 杯
ドイツ人とパン
グリム童話
アウトバーン
環境保護
ドイツの人気バンド Tokio Hotel
ドイツの歴史
色で表すドイツの政治
手紙
再生可能エネルギー・発音

5. 評価の方法・基準

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：フィール・シュパース！＜ Ver.3 ＞（郁文堂）
ISBN: 9784261012354

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（授業時間の前後）

ドイツ語 C I German C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・人との関わり
- ・家族と友人関係
- ・健康と医療
- ・住環境と家事
- ・環境と自然
- ・旅行と交通

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ドイツ語 C II German C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 ニーデラー, E J

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語のより高度な表現力を養う。
2. ドイツ語独自の文化形式をより深く理解する。

4. 授業計画

さまざまな局面での表現方法に慣れる：

- ・食生活
- ・公的機関
- ・学校と教育
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・政治と共同体

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ二～三週をかけて学習する

5. 評価の方法・基準

学期末試験を行い、授業への参加状況を加味して 60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、外国語の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

授業時間の前後

E-mail: n-miwako@nifty.com

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 こんにちは
5. テキスト第二課 また明日
6. テキスト第三課 ありがとう
7. テキスト第四課 お久しぶり
8. テキスト第五課 出迎える
9. テキスト第六課 動詞：是
10. テキスト第七課 基本語順 S + V + O
11. テキスト第八課 助動詞：想
12. テキスト第九課 動詞：在
13. テキスト第十課 数の言い方
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbq.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音 I 声調、単母音、子音
3. 発音 II 二重母音と三重母音
4. 発音 III 鼻母音、軽声
5. 発音 IV 変調、アル化
6. 第 1 課 自己紹介
7. 第 1 課 人称代名詞、動詞述語文
8. 第 2 課 出合い
9. 第 2 課 指示代名詞、疑問詞疑問文
10. 復習
11. 第 3 課 陳さんの部屋
12. 第 3 課 存在文、方位詞
13. 第 4 課 陳芳さんの故郷
14. 第 4 課 主述述語文、反復疑問文
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン!』（紅粉芳恵・陳賛 同社社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音Ⅰ 声調、単母音、子音
3. 発音Ⅱ 二重母音と三重母音
4. 発音Ⅲ 鼻母音、軽声
5. 発音Ⅳ 変調、アル化
6. 第1課 自己紹介
7. 第1課 人称代名詞、動詞述語文
8. 第2課 出会い
9. 第2課 指示代名詞、疑問詞疑問文
10. 復習
11. 第3課 陳さんの部屋
12. 第3課 存在文、方位詞
13. 第4課 陳芳さんの故郷
14. 第4課 主述述語文、反復疑問文
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき 40 人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同社社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 こんにちは
5. テキスト第二課 また明日
6. テキスト第三課 ありがとう
7. テキスト第四課 お久しぶり
8. テキスト第五課 出迎える
9. テキスト第六課 動詞：是
10. テキスト第七課 基本語順 S + V + O
11. テキスト第八課 助動詞：想
12. テキスト第九課 動詞：在
13. テキスト第十課 数の言い方
14. 総合復習①
15. 総合復習②

5. 評価の方法・基準

定期試験 90％、平常点 10％、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、繁体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 年月日・日曜日・年令表現
3. テキスト第十二課 量詞の使い方
4. テキスト第十三課 時刻の言い方
5. テキスト第十四課 アスペクト “了”
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 助動詞：能・可以
8. テキスト第十五課 助動詞：会
9. テキスト第十六課 現在進行形
10. テキスト第十六課 電話のかけ方
11. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
12. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
13. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
14. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbq.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第 5 課 アルバイト
3. 第 5 課 推量表現、場所表現
4. 第 6 課 レストラン
5. 第 6 課 量詞、様態補語
6. 復習
7. 第 7 課 スポーツ
8. 第 7 課 可能表現、連動文
9. 第 8 課 パソコン
10. 第 8 課 二つの “了”
11. 復習
12. 第 9 課 夏休み
13. 第 9 課 選択疑問文、比較文
14. 復習
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同友社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第 5 課 アルバイト
3. 第 5 課 推量表現、場所表現
4. 第 6 課 レストラン
5. 第 6 課 量詞、様態補語
6. 復習
7. 第 7 課 スポーツ
8. 第 7 課 可能表現、連動文
9. 第 8 課 パソコン
10. 第 8 課 二つの“了”
11. 復習
12. 第 9 課 夏休み
13. 第 9 課 選択疑問文、比較文
14. 復習
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同出版社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語、簡体字、繁体字、隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国映画上映
2. テキスト第十一課 年月日・日曜日・年令表現
3. テキスト第十二課 量詞の使い方
4. テキスト第十三課 時刻の言い方
5. テキスト第十四課 アスペクト “了”
6. まとめ 復習
7. テキスト第十五課 助動詞：能・可以
8. テキスト第十五課 助動詞：会
9. テキスト第十六課 現在進行形
10. テキスト第十六課 電話のかけ方
11. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
12. テキスト第十七課 まとめ復習（発音）
13. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
14. テキスト第十八課 まとめ復習（文法）
15. 総合演習

5. 評価の方法・基準

定期試験 90％、平常点 10％、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「しゃべっていいとも中国語」（朝日出版社）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2010@leo.bbiq.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 第1課、第2課 復習
3. 第1課、第2課 暗唱
4. 第3課、第4課 復習
5. 第3課、第4課 暗唱
6. 第5課、第6課 復習
7. 第5課、第6課 暗唱
8. 第7課、第8課 復習
9. 第7課、第8課 暗唱
10. 第9課 復習
11. 第9課 暗唱
12. 第10課 デートの誘い
13. 第10課 暗唱
14. 第11課 夢
15. 第11課 暗唱

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 第1課、第2課 復習
3. 第1課、第2課 暗唱
4. 第3課、第4課 復習
5. 第3課、第4課 暗唱
6. 第5課、第6課 復習
7. 第5課、第6課 暗唱
8. 第7課、第8課 復習
9. 第7課、第8課 暗唱
10. 第9課 復習
11. 第9課 暗唱
12. 第10課 デートの誘い
13. 第10課 暗唱
14. 第11課 夢
15. 第11課 暗唱

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. 第1課、第2課 復習
3. 第1課、第2課 暗唱
4. 第3課、第4課 復習
5. 第3課、第4課 暗唱
6. 第5課、第6課 復習
7. 第5課、第6課 暗唱
8. 第7課、第8課 復習
9. 第7課、第8課 暗唱
10. 第9課 復習
11. 第9課 暗唱
12. 第10課 デートの誘い
13. 第10課 暗唱
14. 第11課 夢
15. 第11課 暗唱

5. 評価の方法・基準

定期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『中国語よ〜いドン！』（紅粉芳恵・陳賛 同人社）

8. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

1. 発音のまとめ①
2. 発音のまとめ②
3. 第一課 名詞述語文
4. 第二課 自己紹介
5. 第三課 形容詞述語文
6. 復習
7. 第四課 数・日付の言い方
8. 第五課 動詞述語文
9. 第六課 存在文
10. 復習
11. 第七課 助動詞・反復疑問文
12. 第八課 助動詞
13. 第九課 経験の表現など
14. 第十課 料理を注文する表現など
15. 復習

5. 評価の方法・基準

期試験（70％）、小テスト・出席点（30％） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：『〈新版〉中国語 10 課』（方如偉・王智新・鎧屋一 白水社）

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

中国語 A Chinese A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国、外国語、異文化、会話

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基礎的な文法をマスターする。
- ③基本的な会話ができるようになる。
- ④中国に対する知識を増やす。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習
2. 第1課 あなたも留学生ですか
3. 第2課 アルバイトする
4. 第3課 レストランで
5. 第4課 カラオケに行く
6. 第5課 あなたは歌がうまい
7. 第6課 家族写真
8. 第7課 シャツを買う
9. 第8課 誕生パーティー
10. 第9課 DVDを見る
11. 第10課 夏休み
12. 第11課 学園祭
13. 第12課 スキーをする
14. 第13課 診察を受ける
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『しゃべっていいとも 中国語 2 〜ステップアップ編〜』（陳淑梅・劉光赤著 朝日出版社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語 B I Chinese B I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国、外国語、異文化、社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基本的な文法をマスターする。
- ③中国に対する知識を増やす。
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる。

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス
2. 第1課 自己紹介
3. 第2課 わたしの家族
4. 第3課 インターネット
5. 第4課 デート
6. 第5課 温泉旅行
7. 第6課 趣味
8. 第7課 ともだち
9. 第8課 会食
10. 第9課 目覚まし時計
11. 第10課 アルバイト
12. 第11課 冬休み
13. 第12課 留学
14. 文法のまとめ 1・2・3
15. 総復習

5. 評価の方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。
平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『2 冊目の中国語 〜講読クラス〜』

（劉穎・柴森・小澤正人著 白水社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人間科学事務室にたずねること。

中国語 B II Chinese B II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはいい。

2. キーワード

中国、外国語、異文化、社会事情

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする。
- ②基本的な文法をマスターする。
- ③中国に対する知識を増やす。
- ④簡単な文章の聴きとり・作文ができるようになる。

4. 授業計画

日常生活や精神生活のさまざまな場面における表現方法を知る：

- ・対人関係
- ・住環境
- ・外国文化の受容
- ・交通事情
- ・食生活とその変化
- ・公的機関
- ・近年の社会事情
- ・仕事と職業
- ・余暇と文化的な生活
- ・伝統的な祭日

などの場面における主要な表現の仕方を、それぞれ一～二週をかけて学習する。

5. 評価の方法・基準

定期試験に平常点を加味し、合計 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席することが単位取得の必須条件である。

7. 教科書・参考書

未定

8. オフィスアワー

未定

ロシア語Ⅰ Russian I

対象学科（コース）：全学科 学年：3 年次 学期：前期

単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名（名詞の単数と複数）
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語（動詞の人称変化形）
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味（名詞の対格）
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第15回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

5. 評価の方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20 分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

ロシア語Ⅱ Russian II

対象学科（コース）：全学科 学年：3 年次 学期：後期

単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

I に引き続き、ロシア語の文法を学修する。テキストの講説とその応用としての対話練習を行う。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介（名詞の前置格）
- 第2回 テーマ「第3課②」職業（形容詞）
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活（動詞の過去）
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問（動詞の体）
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇（動詞の未来形）
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問（動詞の命令形）
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第15回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

5. 評価の方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20 分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

韓国（朝鮮）語Ⅰ Korean I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国文化

3. 到達目標

- ①韓国語の文字と発音の習得
- ②基礎的な文法の学習
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、ヤル気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫 「レッスン韓国語Ⅰ」太成出版社
（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介いたします。）

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国（朝鮮）語Ⅱ Korean II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：3年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

基本的には「韓国（朝鮮）語Ⅰ」の続きとして進めていきます。（しかし、受験生のほとんどが初学習者の場合にはこの限りではありません。前期の復習になる可能性もあります。）講義では、ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を学習します。韓国語の読み、書き、聞く、話す力を養います。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国文化

3. 到達目標

- ①基礎的な文型及び文法の学習
- ②やさしい日常会話の習得
- ③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2 と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬形と連体形

5. 評価の方法・基準

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

7. 教科書・参考書

韓国（朝鮮）語Ⅰ参照。
桂林春・桂文姫「レッスン韓国語Ⅰ」太成出版社

8. オフィスアワー

E-mail : gyelc0926@yahoo.co.jp

保健体育系科目の概要

Ⅰ．「保健体育系」の目的・目標

1. 身体、身体運動やスポーツ（Muscular Activity）についての科学的思考能力の育成
2. 健康（度）や体力（フィットネス）の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性やコミュニケーション能力の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯スポーツへの橋渡し

Ⅱ．保健体育系における授業の方向性

スポーツ運動学の実技において身体活動や筋運動を通じた教授学習過程におけるシークエンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動（スポーツ種目）強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間（継続、実施）
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量（強度 × 時間）
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

Ⅲ．保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目：スポーツ運動学実技 A およびスポーツ運動学実技 B
2. 人間科学副専門科目：健康スポーツ科学論
「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面を講義では取り扱う。
3. リレー講義科目関連：リレーセミナー
上記のスポーツ運動学の実技、講義の受講以降、実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育（生命体工学研究科 生体機能 生体適応システム講座）との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式できるように実施している。それは「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験を含んだ内容から構成されている。

スポーツ運動学実技 A Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科 学年：1 年次 学期：前期

単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広く受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおし、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体トレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

スポーツ運動学実技B Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科 学年：1 年次 学期：後期

単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおり、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおり（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体トレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

スポーツ運動学実技・B（後期）に関しては、木曜 5 時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

健康スポーツ科学論 Exercise Prescription

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 鳥井 正史

1. 概要

●背景

「生活習慣病」（これまでの「いわゆる「成人病」」）の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能、身体トレーニング、体力＝健康度の向上、生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日の健康概念の理解
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
- 3) 運動処方や身体トレーニング計画の立案・実施

4. 授業計画

- 1) 現代生活と健康—その 1 寿命と疾病構造の変遷
- 2) その 2 生活習慣病の出現
- 3) その 3 食事と運動と休息・休養（睡眠）の関連
- 4) 「体力」概念—行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果—運動・スポーツに関する生理学の基礎（総論）
- 6) a. 筋、神経系
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力（心・血管系）に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際（総論）運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック（運動実施のための健康診断）、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その 1、その 2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価の方法・基準

期末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義 2～3 回に 1 回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター（編）スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社 780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康（新書版）岩波書店 081/I-2-3/39
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店 780-1/I-18/2
4. 池上晴夫：適度な運動とは何か 講談社 780-1/I-21, 480/B-2/739
5. 時実利彦：脳の話（新書版）岩波書店 081/I-2/461

8. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

テーマ別リレー講義 「人権とはなにか」

What are human rights?

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：全学年

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 八丁 由比（コーディネーター）

1. 概要

一つの題目について様々な専門領域から考察を試みる授業。複数の教員がそれぞれの視点から行う講義を聞き、テーマについて考え、レポートにまとめる。

今年度のテーマは「人権とはなにか」である。言い古された感のあるこの言葉の持つ意味について、どれほどの人が具体的に考えたことがあるだろうか。日本国憲法は人権を「侵すことのできない永久の権利」として、現在及び将来の国民に約束し、国際連合憲章はその序文において人権に対する信念を確認している。その後、世界人権宣言、世界人権規約などが発表され、2006年には人権理事会が発足するなど、法制度だけを見ると人権は国際的関心が高く手厚く保護されているかのように思えるかもしれない。本当にそうだろうか。

実際の世の中に目を転じてみると、人権が脅かされていると思われる場面は多々ある。戦争に巻き込まれて命を落とす市民、難民となって行き場を失った人々、文化や法制度の異なる国で裁かれ、自由を奪われた外国人労働者や観光客。日本国内にも同様のことは散見される。いじめ、ハラスメント、国籍や性差による不公平、障害や病気に対する偏見、社会的弱者に対する虐待、急速に進む科学技術の発展や情報化社会における人権問題。一体人権とは何だろうか。なぜ守らなければならないのだろうか。国によって、時代によって考え方が違うのだろうか。どんな時に侵害されるのか、自分は他人の人権を侵してはいないだろうか。人権は本当に普遍的価値として受け入れられているのか。「人権」というテーマを通して、たくさんの「なぜ」を問い、人とは何か、権利とは何か、人権とは何かについて考えてほしい。

2. キーワード

生命、権利、自由、社会

3. 到達目標

人権という概念がいつ、どのようにして生まれ、社会に広まったのかを理解する。

人権を巡る諸問題はいかなるものか理解し、なぜそのような問題が起こるのか考える。

人権を巡る問題について、自分の考えを論理的に述べるができるようになる。

4. 授業計画

1. ガイダンス（八丁由比）
2. イギリスにおける「人権」の歴史（水井万里子）
3. イギリス文学にあらわれた人権の主張（虹林慶）
4. ドイツ文学作品に表れた人権の扱い方（反町裕司）
5. アメリカ文学作品にみる人権問題（大野瀬津子）
6. 明治期の日本における人権概念（本田逸夫）
7. 日本国憲法と人権（北九州市立大学教授 小野憲昭）
8. 学校教育と子供の人権（東野充成）
9. 日本における外国人の人権（アブドゥハン恭子）
10. 経済活動における人権（辻隆司）
11. アメリカ国内と人権（R. ロング）
12. 医療における人権（九州大学准教授 原田博子）
13. 情報化社会と人権（非常勤講師）
14. 先端科学技術と人権（放送大学教授 岸根順一郎）
15. 哲学と人権（中村雅之）
16. まとめ（八丁由比）

5. 評価の方法・基準

- ・リアクションペーパー
- ・レポート

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

他人の論文やインターネットの文章などを断りなく引用するこ

とを「剽窃」という。剽窃がみつかった場合は履修資格を失う。

多くの参考文献や新聞を読んだ上でレポートを執筆することを勧める。物事を考え、意見をまとめ、レポートとしてまとめる訓練をしたい学生を歓迎する。

7. 教科書・参考書

- ・教科書は指定しない。
- ・参考文献の詳細は授業中に指示する。

8. オフィスアワー

コーディネーター：八丁 総合教育棟 410 号室

e-mail：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

月曜日 3 限または個別に設定した時間

2013 年 リレーセミナー 「転換期の食と農」

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4 年次 学期：前期 単位区分：選択

単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成・水井 万里子・辻 隆司

1. 概要

食及びそれを産出する農業は、人間の生命活動そのものにかかわる点で、人類のもっとも基底的かつ永続的な営みのひとつである。同時に、近年、食や農業をめぐる、ドラスティックな変化や新たな課題が発現しつつある。ミクロレベルでの食行動や食生活の変化とマクロレベルでの食文化や食習慣の変化、農業生産に伴う環境負荷の問題化と農業による環境保全の動き、農業生産の企業化と農産物の投機商品化、農産物貿易をめぐる保護主義と開放主義の闘争の先鋭化、地域によって二極化する飢饉と飽食など、食や農に関する問題は、個人的な意識や行動のレベルに始まり、ドメスティックな農業政策や環境政策といった内政上の課題、貿易や地球規模での環境保全といった外交上、グローバルな諸課題とも分かちがたく結びついている。

本セミナーでは、こうした多様かつ多層な問題群を内包する食と農というテーマについて、3 人の教員がリレー形式で参加し、学生の理解を深めることを目的とする。セミナーでは順に、ミクロレベルの問題、内政的な問題、歴史的展開も含めたグローバルな問題について取り上げる。

2. キーワード

食育 環境教育 農業ビジネス フェアトレード モノの世界史 グローバリゼーション

3. 到達目標

- 1 資料を正しく理解する。
- 2 根拠をあげて論理的に議論ができる。
- 3 資料と議論をふまえ、筋道の通ったレポートを作成できる。

4. 授業計画

- 01) イントロダクション（東野）
- 02) 食行動と食文化の変化（東野）
- 03) 食育の在り方（東野）
- 04) 農業と環境教育（東野）
- 05) 食の工業化（東野）
- 06) 世界の食料需給動向（辻）
- 07) 農業ビジネスの在り方①（辻）
- 08) 農業ビジネスの在り方②（辻）
- 09) 第 6 回～第 8 回の総括（辻）
- 10) 食の歴史の変遷（水井）
- 11) 食文化の伝播（水井）
- 12) 植民地における農業生産（水井）
- 13) フェアトレードの考察（水井）
- 14) 総括（東野）
- 15) 試験（東野）
- 16) 解説（東野）

5. 評価の方法・基準

授業内のディスカッション（プレゼンテーションなども含む）、3 回のレポートを総合して行う。60 点以上を合格とする。最終的成績評価はコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・セミナーという形式上、受講制限を設けることがある。
- ・新聞等に毎日必ず目を通すこと。

7. 教科書・参考書

- ・教科書は使用しない
 - ・参考文献は以下の通り
- 岩村暢子『変わる家族と食卓』勁草書房 498.5/I-10
 佐藤洋一郎『里と森の危機』朝日選書 081/A-1/786
 大江正章『地域の力』岩波新書 081/I-2-4/1115
 木村伸男『現代農業のマネジメント』日本経済評論社 ISBN: 9784818819887

小澤拓也『コーヒーのグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房 619.8/O-1

マクファーレン『茶の帝国』知泉書館 383.8/M-6

8. オフィスアワー

相談窓口はコーディネーターの東野（総合教育棟 309）

電話・FAX 093-884-3433

e-mail:higashi@dhs.kyutech.ac.jp

オフィスアワー：火曜 13 時～16 時

Ⅱ-1. 教職に関する専門教育科目

Ⅱ-2. 工業の教科に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：●● 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の位置付け

教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導 生徒指導 聖職観 労働者観 専門職論 保護者 同僚 地域住民 教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1 回 イントロダクション
- 2 回 日本の公教育制度－歴史と現在－
- 3 回 公教育制度の国際比較
- 4 回 教育的人間関係と教授法の変遷
- 5 回 学校文化と教師文化
- 6 回 職業としての教師概説
- 7 回 教師と保護者・地域
- 8 回 教師役割の国際比較
- 9 回 専門職としての教師（１）－教職は聖職か？－
- 10 回 専門職としての教師（２）－労働者としての教師－
- 11 回 専門職としての教師（３）－専門職とは何か－
- 12 回 教師を取り巻く現実（１）－社会の変化と子どもの変化－
- 13 回 教師を取り巻く現実（２）－授業崩壊と保護者との関係－
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

- 中間レポート 40%
期末レポート 60%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会 375.9/H-2
山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education © the 1 stperiod © Monday

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の３つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育 職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 「子ども」と「大人」の境界線
- 2 回 教える者、教えられる者
- 3 回 発達と社会化
- 4 回 人間の発達段階
- 5 回 中間テストⅠ
- 6 回 学校制度の国際比較
- 7 回 公教育の歴史と制度
- 8 回 教育改革の動向
- 9 回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10 回 中間テストⅡ
- 11 回 不登校という選択
- 12 回 「いじめ」とは何か？
- 13 回 教育のリストラクチャリング
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

- 中間テスト計 60%
期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13

田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

対象学科(コース): 全学科(教職科目) 学年: 1・2年次

学期: 前期 単位区分: 選択必修 単位数: 2単位

担当教員名 兄玉 恵美

1. 概要

(月曜1・2限)

●授業の目的

人間理解を深め、集団や個に応じた教育を行うための基礎知識と考え方を学ぶ。そして、授業で得られた知見を教育の実践の場で応用できるようになる。

●授業の位置づけ

授業では、教育心理学で必要な知識である、発達、学習、評価、学級集団、人格・適応を学ぶ。そして、これらの学びをより深めるために、教育心理学だけではなく様々な領域の心理学的知見について総合的に学ぶ。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、臨床心理学

3. 到達目標

- ①教育にかかわる心理学の基礎的な知識を理解できる。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション・教育心理学とは?
- 2回 発達① 発達に影響を与える要因や発達課題
- 3回 発達②
- 4回 発達③
- 5回 学習① 動機付け、学習意欲、記憶
- 6回 学習②
- 7回 学習③
- 8回 教育評価① 様々な教育評価方法や学力観
- 9回 教育評価②
- 10回 学級集団の理解
- 11回 人格と適応① 人格と適応の諸理論
- 12回 人格と適応②
- 13回 人格と適応③
- 14回 学校臨床
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト80%、出席状況20%で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する

●参考書

大村彰道編『教育心理学Ⅰ 発達と学習指導の心理学』(1996)
東京大学出版会

下山晴彦編『教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学』(1998)
東京大学出版会

子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司『教育心理学[新版] ベーシック現代心理学6』(2003) 有斐閣

8. オフィスアワー

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互规定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 家族をめぐる諸問題
- 2回 文化的再生産と教育
- 3回 エスニシティと教育
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 中間テストⅠ
- 6回 メディアと教育
- 7回 現代の子ども文化
- 8回 現代の若者文化
- 9回 少年犯罪言説と少年法
- 10回 少年司法のポリティクス
- 11回 中間テストⅡ
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト計 60%

期末テスト 40%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を

摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

- 参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法 Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：通年 単位数：4 単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
- ②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
- ③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置づけ

- ①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
- ②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2. キーワード

工業科教育 教材研究 技術教育 職業教育

3. 到達目標

- ①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
- ②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
- 2 回 学校教育の課題
（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
- 3 回 工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
- 4 回 戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
- 5 回 戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
- 6 回 学習指導要領の改訂と工業科の変遷
（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
- 7 回 欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
- 8 回 欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
- 9 回 工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
- 10 回 工業科の教育内容と方法（2）（同上）
- 11 回 工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
- 12 回 工業科の教材研究の事例（2）（同上）
- 13 回 工業科の教材研究の事例（3）（同上）
- 14 回 工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
- 15 回 まとめ
- 16 回 普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
- 17 回 学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）

- 18 回 技術革新と工業教育の改編
（産業界の要請、工業教育の多様化）
- 19 回 工業に関する学科の目標
（工業高校の目標と工業に関する各学科の目標）
- 20 回 教科「工業」の目標と学科の目標
（教科「工業」の目標の変遷）
- 21 回 学科の教育課程編成（生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方）
- 22 回 教材（教材の概念、教授学習過程における教材の位置）
- 23 回 工業技術教育の指導性（物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について）
- 24 回 教育評価
（学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点）
- 25 回 授業評価（教授学習過程における評価、評価方法）
- 26 回 学習指導案の構成（1）
（学習指導案の構成、留意点について）
- 27 回 学習指導案の構成（2）（同上）
- 28 回 学習指導案例（1）
（「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する）
- 29 回 学習指導案例（2）（同上）
- 30 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
- ④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

7. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999 年
斉藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005 年 375.6/S-2

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後をオフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp,,

教科教育法（数学）Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：前期 単位数：2 単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校数学科の「授業を創る力」をつけることを意識しつつ、そのための基礎となる内容を取り上げる。具体的には、我が国の数学教育の現状を踏まえて、これからの数学教育が目指すものを理解すると共に、数学教育の歴史、目的、指導方法、授業構成について考察する。

2. キーワード

TIMSS PISA 全国学力・学習状況調査 学習指導要領 数学教育史 数学教育の目的 数学的活動 授業スタイル

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①我が国の数学教育の現状
- ②これからの数学教育の在り方（中教審答申、学習指導要領）
- ③数学教育の歴史
- ④数学教育の目的
- ⑤数学的活動
- ⑥数学科の授業スタイル

4. 授業計画

授業では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 我が国の数学教育の現状①—TIMSSとPISA—
- 3 回 我が国の数学教育の現状②—全国学力・学習状況調査—
- 4 回 これからの数学教育の在り方①—中央教育審議会答申—
- 5 回 これからの数学教育の在り方②—中学校学習指導要領—
- 6 回 これからの数学教育の在り方③—高等学校学習指導要領—
- 7 回 数学教育の歴史
- 8 回 数学教育の目的①
- 9 回 数学教育の目的②
- 10 回 数学的活動①
- 11 回 数学的活動②
- 12 回 数学的活動③
- 13 回 数学科の授業スタイル①
- 14 回 数学科の授業スタイル②
- 15 回 数学科の授業スタイル③

5. 評価の方法・基準

出席 30% 期末レポート 70%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業内容の十分な理解を得るため、各テーマごとに課す宿題に取り組むこと。
- ③授業時間外には、授業の内容を踏まえて、数学教育に関する文献を積極的に読むこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、各テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

8. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：後期 単位数：2 単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校数学科の「授業を創る力」をつけることを意識しつつ、そのための基礎となる内容を取り上げる。具体的には、数学科の学習指導案、評価について理解すると共に、教材研究、模擬授業に取り組む。

2. キーワード

学習指導案 評価 教材研究 模擬授業

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①数学科の学習指導案
- ②数学科の評価
- ③数学科の教材研究
- ④数学科の模擬授業

4. 授業計画

授業では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 数学科の学習指導案
- 3 回 数学科の評価
- 4 回 中学校・高等学校・大学の数学科内容構成
- 5 回 数学科の教材研究①（代数）
- 6 回 数学科の教材研究②（幾何）
- 7 回 数学科の教材研究③（解析）
- 8 回 数学科の教材研究④（確率・統計）
- 9 回 数学科の教材研究⑤（数学活用）
- 10 回 数学科の模擬授業①
- 11 回 数学科の模擬授業②
- 12 回 数学科の模擬授業③
- 13 回 数学科の模擬授業④
- 14 回 数学科の模擬授業⑤
- 15 回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席 30% 期末レポート 70%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業内容の十分な理解を得るため、各テーマごとに課す宿題に取り組むこと。
- ③授業時間外には、授業の内容を踏まえて、数学教育に関する文献を積極的に読むこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、各テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

8. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位数：1 単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校 教育課程（カリキュラム） 教科

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
- ③現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4. 授業計画

- 1・2 回 はじめに－学校教育をとりまく状況－
以下 教育課程総論
- 3・4 回 教育課程とは何か ・語義／意義 ・領域／構造
- 5・6 回 教育課程の変遷
- 7・8 回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域
（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程 第三版』有斐閣 2011 年 375/T-5
文部科学省『中学校学習指導要領解説－総則編－』375.1/M-15/08-2

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位数：1 単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校 特別活動 学級活動（ホームルーム活動） 生徒会活動 学校行事

3. 到達目標

- ①日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ②中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
- ③生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2 回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4 回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6 回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
学級活動－中学校－
- 7・8 回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
ホームルーム活動－高等学校－
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）
生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）
学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

文部科学省『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』375.1/M-18/08-13
文部科学省『高等学校学習指導要領解説－特別活動編－』375.1/M-19/09-19

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法 Educational Method

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：前期 単位数：2 単位

担当教員名 三木 やよい

1. 概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応え実践的指導力を獲得するためには、学校教育現場での教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

本講義では、まず授業・学習の捉え方についてふれ、現在どのような授業が求められているのかということについて説明する。次に、学校における教育課程編成、教育方法に関して、基礎的な内容を解説する。最後に、単元計画を作成したり、VTR で実際の授業を見ることなどを通して、教育課程編成、教育方法について具体的に考える。これを通して、授業という創造的な仕事を自ら行うための手がかりをつかんでもらいたい。

●授業の位置付け

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2. キーワード

教育課程、学習指導要領、教育方法・技術、教育評価、問題解決的な学習、総合的な学習の時間

3. 到達目標

- ①現在求められている授業について理解する。
- ②教育課程編成、教育方法に関して、主要な概念を理解する。
- ③実践する立場から、授業づくりのポイントを指摘できる。

4. 授業計画

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 授業観・学習観の転換 1
- 3 回 授業観・学習観の転換 2
- 4 回 学習指導要領の歴史的変遷と新学習指導要領の特色
- 5 回 学習指導の原理 1 問題解決学習、系統学習、発見学習
- 6 回 学習指導の原理 2 動機づけ、適性処遇交互作用、教師期待効果
- 7 回 学習指導の形態 一斉教授、小集団学習、個別学習、T.T
- 8 回 教育評価 指導要録、到達度評価、ポートフォリオ評価
- 9 回 問題解決的な学習 1 問題解決学習の理論
- 10 回 問題解決的な学習 2 問題解決学習の実践例
- 11 回 問題解決的な学習 3 極地方式研究会の理論
- 12 回 問題解決的な学習 4 極地方式研究会の実践例
- 13 回 総合的な学習の時間 総合学習の理論と実践例
- 14 回 授業づくり 単元計画、学習指導案
- 15 回 教師の指導力
- 16 回 試験

5. 評価の方法・基準

出席カード（40％）と最終課題（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

出席カードには、授業の感想等を記入すること。

最終課題（試験）では、自筆のノートのみ持ち込み可とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義形式で進めるが、発表や話し合いなども取り入れる予定である。積極的な参加を期待したい。

7. 教科書・参考書

●教科書

樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版 ISBN: 9784761916879（改訂版）

●参考書

田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房 ISBN: 9784623043323

8. オフィスアワー

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位数：2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

●授業の目的

生徒指導、進路指導について基本的な知識を得るとともに、生徒指導上の問題に対し、自ら考え取り組める力を身につける。

●授業の位置づけ

教育現場では、いじめや非行、不登校など、さまざまな問題が発生している。教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。授業ではこれらについて、講義と体験学習により習得する。

2. キーワード

発達、心理査定、進路指導、教育相談、カウンセリング

3. 到達目標

- ①人格理解のための基礎理論について習熟する。
- ②カウンセリングの考え方について習熟する。
- ③教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・生徒指導とは？
- 第2回：生徒指導の領域と方法
- 第3回：生徒理解① 人格、発達、心理査定
- 第4回：生徒理解②
- 第5回：生徒理解③
- 第6回：問題行動① いじめ、非行、虐待、不登校
- 第7回：問題行動②
- 第8回：問題行動③
- 第9回：問題行動④
- 第10回：進路指導とは？
- 第11回：進路指導の領域と方法
- 第12回：カウンセリングの考え方
- 第13回：カウンセリングの基礎技法① 傾聴法、応答技法
- 第14回：カウンセリングの基礎技法②
- 第15回：まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト 60％、出席状況 40％で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

体験的な学習も取り入れるため、授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

●参考書

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理基礎・実際・方法 第2版』（2006）ナカニシヤ出版

8. オフィスアワー

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位数：2 単位

担当教員名 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性が高くなる高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談 思春期青年期 発達 心理障害 カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

- ①思春期・青年期の発達を理解する。
- ②思春期・青年期の心理障害を理解する。
- ③教育相談・理論と方法を理解する。

4. 授業計画

- 1 回：はじめに（教育相談の概念整理）
- 2 回：発達とは
- 3 回：発達段階
- 4 回：思春期・青年期の発達①
- 5 回：思春期・青年期の発達②
- 6 回：学童期・思春期の心理障害①
- 7 回：学童期・思春期の心理障害②
- 8 回：青年期の心理障害①
- 9 回：青年期の心理障害②
- 10 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法①
- 11 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法②
- 12 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法③
- 13 回：カウンセリング技術の実習①
- 14 回：カウンセリング技術の実習②
- 15 回：まとめ
- 16 回：試験

5. 評価の方法・基準

出席および期末試験で評価する（出席 30% 期末試験 70%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 教科書・参考書

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

8. オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp

教職実践演習（高）

Practical Seminar for Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：4 年次

学期：後期 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成・菊池 悌一郎・岡崎 悦明・谷野 勝敏

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法にのっとり、大学における教職課程の総まとめを行うとともに、教員という職業に携わる者としての力量形成を図る。

●授業の位置づけ

授業は、大きく以下の4つの柱からなる。

- ①ディスカッションやロールプレーを通して、教師としての使命や責任を体得する。
- ②ボランティアやフィールドワークを通して、社会性やコミュニケーション能力を身につける。
- ③現職の高校教諭との討論や学校参加を通して、生徒の理解を促進し、学校・学級経営の実態を理解する。
- ④模擬授業などを通して、教科指導の力量の定着を図る。

2. キーワード

教師としての資質向上・力量形成

3. 到達目標

- ①これまでに履修してきた教職課程科目及びその他の活動を反省的にふり返るとともに、使命感や責任感、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ②教員としての課題を認識し、知識・技術の定着を図る。
- ③教職及び教科指導に関する知識・技術の再確認を行う。

4. 授業計画

- 1 回 イントロダクション
(これまでの学校生活、学修をふり返って)
- 2 回 教職の意義と教員の役割①（グループディスカッション）
- 3 回 教職の意義と教員の役割②（ロールプレー）
- 4 回 地域フィールドワーク実習①
- 5 回 地域フィールドワーク実習②
- 6 回 生徒指導・進路指導・学級経営①
(グループディスカッション)
- 7 回 生徒指導・進路指導・学級経営②（ロールプレー）
- 8 回 生徒指導・進路指導・学級経営③
(学校現場の見学・調査)
- 9 回 生徒指導・進路指導・学級経営④
(見学調査を踏まえた討論)
- 10 回 数学模擬授業①
- 11 回 数学模擬授業②
- 12 回 工業教科模擬授業①
- 13 回 工業教科模擬授業②
- 14 回 模擬授業に基づく討論
- 15 回 まとめ
- 16 回 試験

5. 評価の方法・基準

平素の授業態度(30%) 発表内容(30%) 最終レポート(40%)

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②学外での活動に積極的に参加するとともに、主体的に授業に参画すること。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 なし

●参考文献

高等学校学習指導要領（総則・数学・工業）
各種審議会答申
教育六法
その他、教育に関する各種新聞記事等

8. オフィスアワー

全体のマネジメントは、東野が行う。オフィスアワーは研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

職業指導 Vocational Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：4 年次

学期：後期 単位数：4 単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを目指す。

●授業の位置づけ

授業では、①モノを作ることや働くことによって姿を現してくる社会と人間の関係に見られる奥深い真実の世界を、現実の企業社会、労働社会の織りなす具体的なデータに基づいて検討を加える。②さらに、高校教育後のいわゆる中等後段階における技術・職業教育の有り様を、職業教育・訓練の公共化の観点から現状分析する。

2. キーワード

職業指導 キャリア教育 専修学校 公共職業訓練 企業内教育

3. 到達目標

- ①現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成することを目指す。
- ②職業的自立のための具体的方策として職業教育のあり方についてもその現状を通して検討する。

4. 授業計画

- 第1回：職業指導とは？
- 第2回：職業指導の社会的基底
- 第3回：経済政策と青少年問題
- 第4回：労働と職場の現実①
- 第5回：労働と職場の現実②
- 第6回：産業社会と職業分布①
- 第7回：産業社会と職業分布②
- 第8回：内部形成と外部形成
- 第9回：青年の自立と高校職業教育①
- 第10回：青年の自立と高校職業教育②
- 第11回：各種・専修学校における職業教育①
- 第12回：各種・専修学校における職業教育②
- 第13回：公共職業訓練と能力開発①
- 第14回：公共職業訓練と能力開発②
- 第15回：まとめ
- 第16回：職業の様々な側面
- 第17回：職業観の変容
- 第18回：生きがいと職業
- 第19回：社会的分業と職業
- 第20回：職業選択の意味
- 第21回：職業選択と情報
- 第22回：情報化の進展と職場の変化
- 第23回：女性の職場進出と労働
- 第24回：男女雇用機会均等法の成立と現在
- 第25回：各種・専修学校と生涯教育
- 第26回：公的職業訓練の動向
- 第27回：企業内教育とOJT
- 第28回：企業外部の教育機関とOffJT
- 第29回：学校教育と職業教育
- 第30回：まとめ
- 第31回：試験

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合同に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、右記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、経済、社会情勢に関する最新の情報を摂取すること。
- ④働く現場を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として学外授業、例えば工場見学や職業能力開発施設の視察を計画している。

7. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

蒲田 慧『日本人の仕事』1986 年、平凡社 ISBN：978-4582705027

木村保茂、永田萬享『転換期の人材育成システム』学文社、2005 年 ISBN：4762013692

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談については、授業終了後をおフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。

上記の科目の他に1年次から3年次の学生を対象にした日本事情C、日本事情Dが金曜日に開講され、これらの単位を取得して人文社会系科目に振り替えることができる。時間割を参照して、履修を希望する者は最初の講義に必ず出席すること。

日本語AⅠ Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石束 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

●読む力、聞く力を向上させる。

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

課題を毎回提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

8. オフィスアワー

火曜日3限

日本語 A I Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

さまざまなタイプの文書を書く方法を身につける。メールや説明文、報告書、ミニプレゼンテーションを経て、論文書式でレポートを作成する。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「目的と書き方」「プレゼンテーション」「論文書式」

3. 到達目標

- ・さまざまな文書で、相手に伝わる方法を身につける。
- ・プレゼンテーションの準備方法を学ぶ。
- ・論文書式で事象の説明と自分の考察をまとめる。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 メール
- 第3回～第4回 説明文
- 第5回～第6回 資料収集の方法
- 第7回～第8回 アイディアの発表
- 第9回～第10回 プレゼンテーションの準備と発表
- 第11回～第12回 報告書
- 第13回～第14回 論文書式に向けて
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

中上級レベルの学習者を対象とする。
課題を必ず提出し、準備をきちんとすること。

7. 教科書・参考書

参考書

- 1) 因京子他：日本語表現道場（ピーエフアール）
- 2) 野田尚史他：日本語を書くトレーニング（ひつじ書房）816/N-12

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- ①読む力、聞く力を向上させる。
- ②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- ③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。
- ④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

- 第1回～第2回 第8課 カラー柔道着
- 第3回～第4回 第9課 料理技能の検定
- 第5回～第6回 第10課 発明王
- 第7回～第8回 第11課 花の洋風化
- 第9回～第10回 第12課 さいせん回数券
- 第11回～第13回 KIT版科学読み物
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。
課題を毎回提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22
- 2) アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

火曜日 3 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できる。

②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができる。

4. 授業計画

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

なし

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B I Japanese B I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。

・聞き取った内容を的確に把握する。

・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

第1回 説明文の表現練習

第2回 テーマ：再生木材

第3回 テーマ：新エネルギー開発

第4回 テーマ：バイオメトリクス認証

第5回 テーマ：地球温暖化 島が沈む

第6回 テーマ：エコタウン

第7回 テーマ：有毒アオコ

第8回 テーマ：脳科学と教育

第9回 テーマ：メタンハイドレート

第10回 テーマ：安全運転自動車

第11回 テーマ：小水力発電

第12回 研究室見学

第13回 テーマ：にょいの不思議

第14回 テーマ：宇宙発電

第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B II Japanese B II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- ・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- ・聞き取った内容を的確に把握する。
- ・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ：スペースシャトル事故
- 第2回 テーマ：折り紙工学
- 第3回 テーマ：自動車エンジン開発
- 第4回 テーマ：巨大津波のメカニズム
- 第5回 テーマ：東京大地震
- 第6回 テーマ：人工筋肉
- 第7回 テーマ：ペットボトルリサイクル
- 第8回 テーマ：災害レスキューロボット
- 第9回 テーマ：磁石研究とエコカー
- 第10回 テーマ：バイオミメティクス
- 第11回 テーマ：熱電発電
- 第12回 テーマ：砂漠で発電
- 第13回 テーマ：スペースデブリ
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C I Japanese C I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

2. キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

3. 到達目標

- ①詳しい説明や描写ができる。
- ②聞き手の興味や理解を確かめながら話せる。
- ③共に話を展開させる聞き方を身につける。
- ④メモをもとにスピーチができる。

4. 授業計画

- 第1回 インタビューと他者紹介
- 第2回 前回のフィードバック：話し方を考える
- 第3回 きっかけを語る
- 第4回 方法説明のスピーチ
- 第5回 失くした体験
- 第6回 図の分析
- 第7回 性格を分析する
- 第8回 うごきの説明
- 第9回 健康・ストレス解消法
- 第10回 物語の説明（1）
- 第11回 物語の説明（2）
- 第12回 ゲームの説明
- 第13回 最近の出来事
- 第14回 将来の夢
- 第15回 日本の文化に慣れるとは

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、授業内での発表（30%）、説明方法のスピーチ（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

7. 教科書・参考書

●教科書

1) 荻原稚佳子他：日本語上級話者への道（スリーエーネットワーク）810.7/O-22

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C II Japanese C II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。具体的には、日本語能力試験 N 1 の問題を客観的な指標の一つとして参考にしながら、自分の日本語能力を測る。小レポートを書いて、それを推敲してプレゼンテーションに発展させる。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」「日本語能力試験 N 1」

3. 到達目標

- ①自分の日本語能力を客観的に評価できる。
- ②不十分な技能を磨くための学習方法を知る。
- ③自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける。
- ④説得力のあるプレゼンテーションができる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：自己評価とは
- 第2回 自分の力を知る：語彙の広さ、量
- 第3回 前回のフィードバック、練習
- 第4回 自分の力を知る：文法的な正確さ
- 第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
- 第6回 自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
- 第7回 前回のフィードバック、練習
- 第8回 自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
- 第9回 前回のフィードバック、練習
- 第10回 自分の力を知る：表現力・説得力
- 第11回 前回のフィードバック、練習
- 第12回 プレゼンテーションに向けて（1）構成
- 第13回 プレゼンテーションに向けて（2）説得力
- 第14回 プレゼンテーションに向けて（3）練習
- 第15回 プレゼンテーション

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

特になし

8. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本事情 A Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①大学生にとって知っていることが望ましいと思われる日本社会に関する基本的な知識を獲得する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③日本の社会、文化についてまとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2～3回 生活
- 第4～5回 少子高齢社会
- 第6～7回 教育
- 第8～9回 企業と労働
- 第10～11回 科学技術と人間
- 第12～13回 自然と人間
- 第14回 アジアの未来
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート（60%）及び毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

●参考書

- 1) 留学生のための時代を読み解く上級日本語 第2版（スリーエーネットワーク）810.7/M-41/2

8. オフィスアワー

月曜日 3 限

日本事情B Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について意見を広げ、討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

その時々々の新聞から興味のある記事を自ら選んで紹介し、意見を交換する。現代の日本社会に対する関心と理解を深める。

2. キーワード

「新聞記事」「日本社会」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う。
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

学生自身がその時々々の新聞から興味のある記事を取り上げて、要旨をまとめ、意見を書いて紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。提起された問題について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価の方法・基準

発表（25%）及び毎回のノート（30%）討論への参加度（20%）最終レポート（25%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

報道されるニュースに日頃から関心を持つこと。図書館で日本の新聞記事も読んでみる習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日 3 限

日本事情C Japanese Culture and Society C

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる。

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

3. 到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 データでみる日本
- 第2回 日本の地理・気候
- 第3回 憲法
- 第4回 政治制度
- 第5回 選挙と世論
- 第6回 戦後経済史
- 第7回 消費者をめぐる問題
- 第8回 労働問題と社会保障
- 第9回 宗教
- 第10回 日本の歴史（1）
- 第11回 日本の歴史（2）
- 第12回 現代日本社会の諸問題
- 第13回 北九州の地理と歴史
- 第14回 ポスター作成
- 第15回 総まとめ討論会

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（50%）、発表（20%）、授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館 3 階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

特に指定しない

8. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること

日本事情D Japanese Culture and Society D

対象学科（コース）：全学科（留学生科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 人間関係を調節する表現についての概論
- 第2－4回 さまざまな表現と使い方
- 第5－7回 頼むとき・頼まれたとき
- 第8－10回 苦情を言うとき・言われたとき
- 第11回 意見を述べる
- 第12回 感謝・謝罪
- 第13回 ほめる・ほめられる
- 第14回 母国文化についてのまとめ作成
- 第15回 総まとめ発表会

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

8. オフィスアワー

アプドゥハン教員を通して質問すること

九州工業大学

郵便番号 804-8550

北九州市戸畑区仙水町1番1号

電話 北九州 (093) 884 - 3088